

熊谷駅南口の活性化に関する
アンケート調査報告書　2024 年 2 月

立正大学データサイエンス学部　×　熊谷市都市整備部都市計画課

立正大学
RISSHO UNIVERSITY

スクマム!クマガヤ
©熊谷市

目次

I.　調査概要 ---------- 1

１. 調査の目的----------1

２. 調査項目 ----------1

３. 調査対象及び調査方法 ----------2

４. 調査票の回収状況 ----------2

II.　回答者の属性 ---------- 3

III. 単純集計結果 ---------- 6

IV. クロス集計結果 ---------- 26

V.　テキストマイニング分析の結果---------- 48

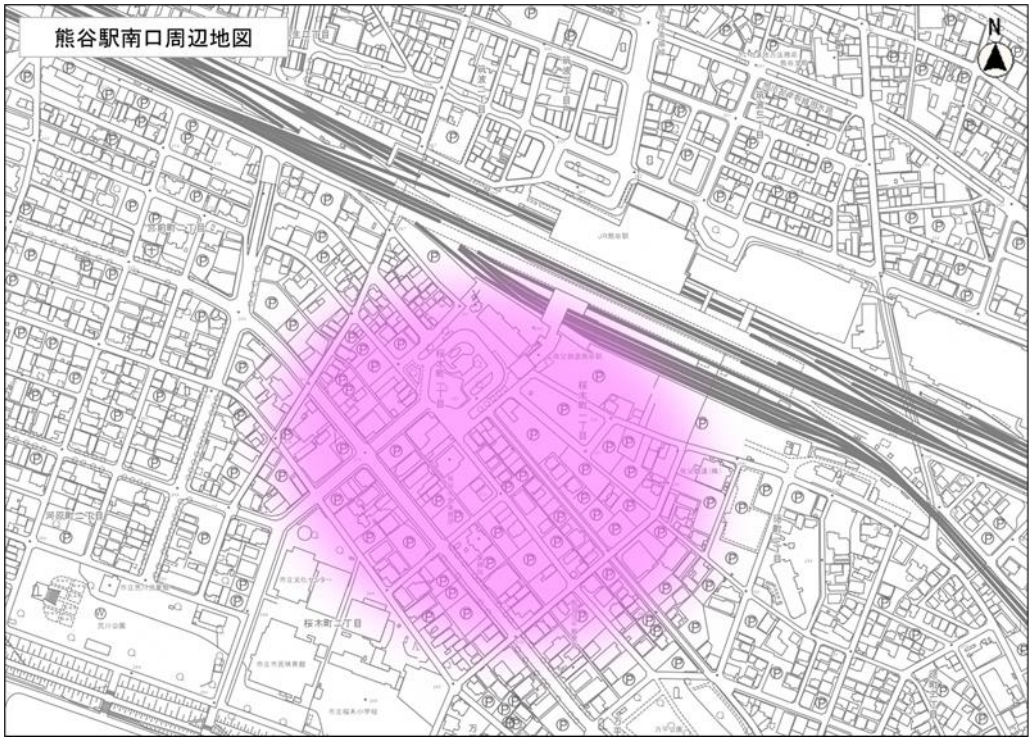
VI. まとめ---------- 52

VII.（参考）アンケート調査票---------- 53

Ⅰ. 調査概要

1. 調査の目的

熊谷駅南口前、または周辺について利用者の実態把握を行い、駅周辺に人の流れや賑わいを生み出すための情報を収集し、駅周辺の活力や魅力を向上させ、ひいてはロータリーの利用拡大を図ることを調査の目的とする。なお、熊谷駅南口前とは、下図の紫色の部分を示す。



2. 調査項目

調査項目は、回答者の属性に関するセクション、熊谷駅南口の利用頻度や意識を尋ねるセクション、ならびに南口広場ロータリーや周辺環境の満足度などを訊くセクションの３つで構成されている。

回答者の属性に関するセクションでは、性別、職業、年齢、居住地、日用品以外の買い物や娯楽の場所に関する設問を設定している。熊谷駅南口の利用頻度や意識を尋ねるセクションでは、交通手段の頻度、通勤や通学以外の目的での熊谷駅南口の利用頻度、現在の熊谷駅南口周辺についての改善、熊谷駅南口周辺が魅力的なまちになるための必要なもの、熊谷駅南口周辺の活性化を推進するための方策に関する設問を設けた。南口広場ロータリーや周辺環境について訊くセクションでは、熊谷駅南口広場ロータリーに関する満足度、熊谷駅南口広場ロータリーを利用しやすくするための対策に関する設問を設定している。

アンケート調査の最後に、熊谷駅南口だけではなく、今回のアンケート調査も含めての全体的な意見や感想を書く自由回答欄を設けた。調査票の具体的な内容については、「Ⅶ. アンケート調査票」に掲載

している。ただし調査は Microsoft Forms を通じて実施しているため、形式などの一部については異なる箇所も存在する。

3．調査対象及び調査方法

今回のアンケート調査の対象は、熊谷駅南口を日常的に使用している企業や学校などの組織に回答を依頼している。そのため無作為抽出法に従ってはいない。また調査対象者には以下のチラシを配布し、QR コードから Microsoft Forms を通じて、パソコンやスマホから回答する形式を採用した。



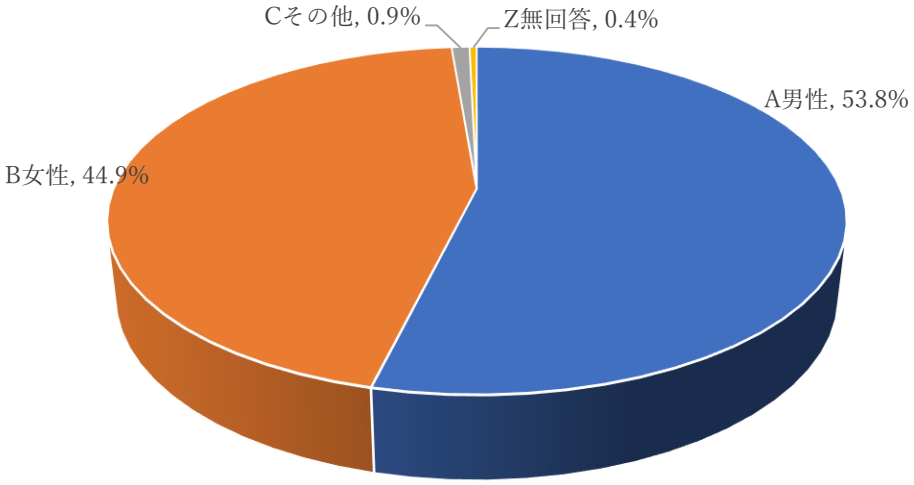
4．調査票の回収状況

2023 年 10 月中旬から 11 月中旬の 1 か月程度の期間を設定し、回答を募った。その結果、535 名の回答者から回答を得た。ただし一部に無効回答がみられるものの、原則としてそれらは削除していない。

Ⅱ. 回答者の属性

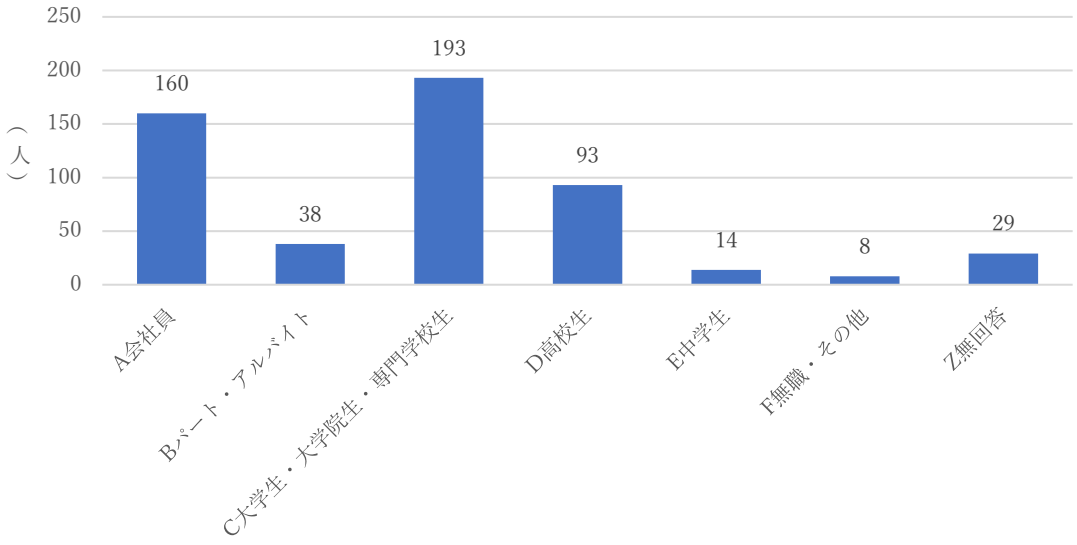
1. 性別について

回答者 535 人中、「A 男性」が 288 人（53.8%）、「B 女性」が 240 人（44.9%）、「C その他」が 5 人（0.9%）となっている。少し男性の方が多いものの、回答者の構成はほぼ同じであるといえる。



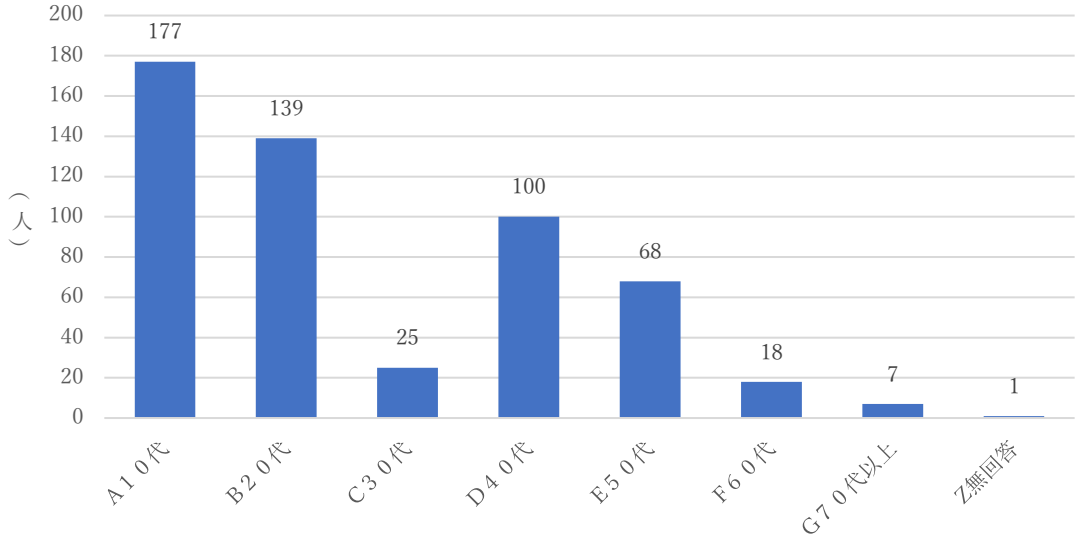
2. 職業について

回答者 535 名中、最も多かったのが「C 大学生・大学院生・専門学校生」の 193 人（36.1%）であった。これに「A 会社員（契約社員、派遣社員含む）」の 160 人（29.9%）が続く。この 2 つの回答群で全体の 3 分の 2 を占めている。さらに「D 高校生」（93 人、17.4%）、「B パート・アルバイト（学生を除く）」（38 人、7.1%）、「E 中学生」（14 人、2.6%）や「F 無職・その他」（8 人、1.5%）という順位となっている。



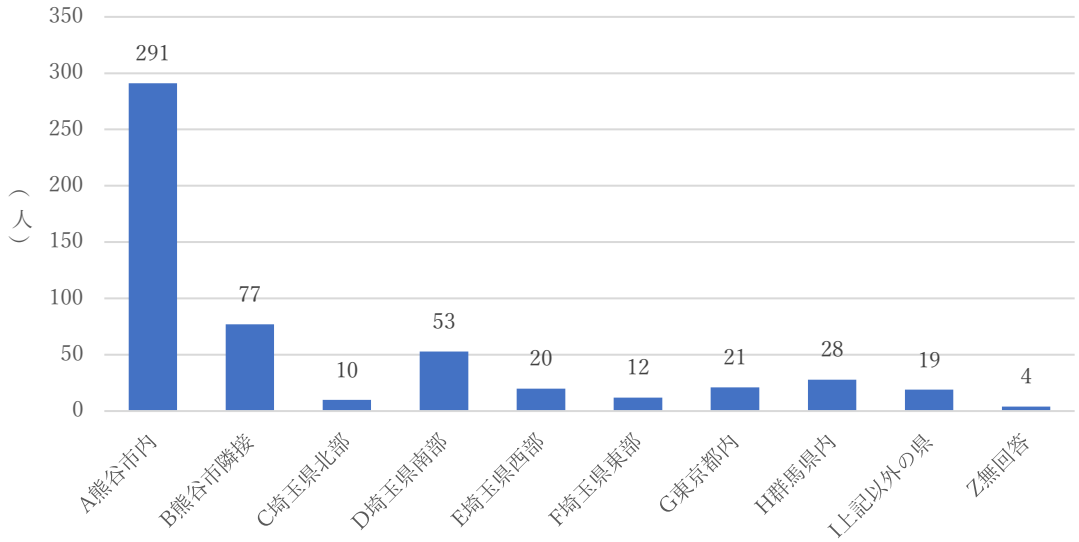
3．年齢構成について

回答者 535 人中、最も多いのが「A　１０代」の 177 人（33.1%）である。その後、「B　２０代」139 人（26.0%）、「C　３０代」25 人（4.7%）、「D　４０代」100 人（18.7%）、「E　５０代」68 人（12.7%）、「F　６０代」18 人（3.4%）、「G　７０代以上」7 人（1.3%）という結果になった。３０代を除いて、年齢が高くなるほど回答者数は減少する傾向にあった。



4．住まいについて

回答者 535 人中、「A 熊谷市内」（291 人）が最も多く、全体の半数（54.4%）を超えた。それ以外の地域は基本的に分散する傾向にある。具体的には、「B 熊谷市隣接（行田市・東松山市・鴻巣市・深谷市・滑川町・嵐山町・吉見町）」77 人（14.4%）、「C 埼玉県北部（本庄市・寄居町・秩父市の周辺）」10 人（1.9%）、「D 埼玉県南部（上尾市・川口市・さいたま市の周辺）」53 人（9.9%）、「E 埼玉県西部（坂戸



市・川越市・所沢市の周辺)」20 人（3.7%)、「F 埼玉県東部（羽生市・久喜市・春日部市の周辺)」12 人（2.2%)、「G 東京都内」21 人（3.9%)、「H 群馬県内」28 人（5.2%）という結果であった。その他の県としては神奈川県、千葉県や茨城県などの回答がみられた。

今回のアンケート調査の回答者の属性をまとめると、おおむね熊谷市内在住の学生の存在を目立つ。大学生、高校生と中学生の占める割合（56.3%）は、6 割近くとなっている。そのため、分析結果から若年層の意見や考え方を読み取ることが期待できる。また会社員やパート・アルバイトも 4 割近く占めることから、それらの階層の比較も可能となる。次章では属性以外の設問の単純集計結果について紹介する。

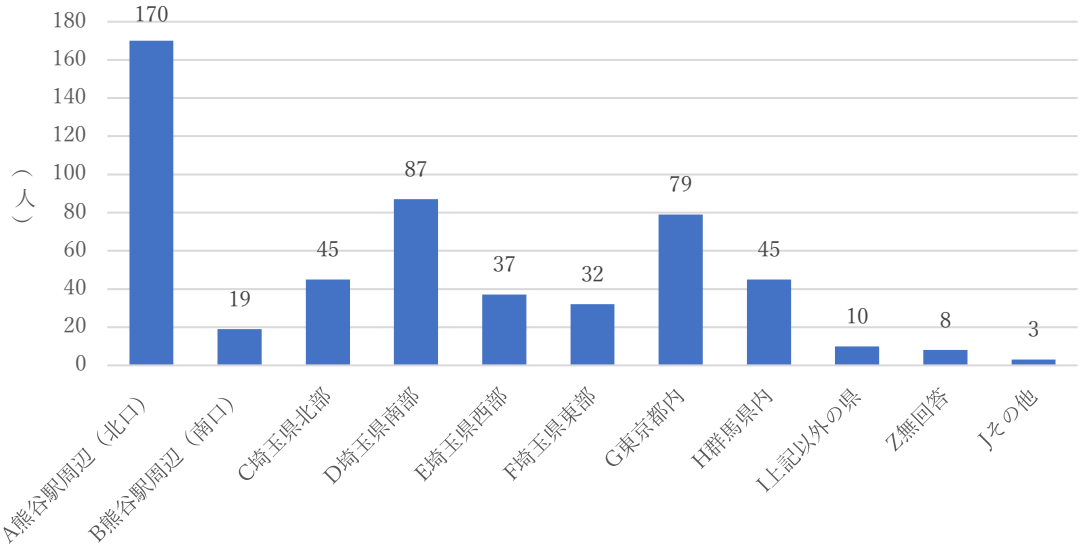
Ⅲ. 単純集計結果

1．日用品以外の買い物や娯楽の場所

「日用品以外の買い物や娯楽は、主にどこに行きますか」という設問に対して、「A 熊谷駅周辺（北口)」(170 人、31.8%）が最も多かった。やはり日常的に熊谷駅を使用しているので、通学や通勤にあわせて北口周辺の商業施設を利用していることが考えられる。一方で「B 熊谷駅周辺（南口)」は 19 人（3.6%）しか存在しなかった。北口との差は 9 倍近いものがある。この理由としては店舗の少なさがあげられ、日常的に南口を使用しても単に通過するだけの回答者が多いことがわかった。

その他、回答が多かった項目として、「D 埼玉県南部（大宮・さいたま新都心・浦和周辺)」(87 人、16.3%）と「G 東京都内」(79 人、14.8%）があげられる。交通費や時間を使ってでも、品質の高い商品やサービス、ならびに品揃えを求めていることがわかる。

近隣地域については、「C 埼玉県北部（深谷・本庄・秩父周辺など)」が 45 人（8.4%)、「E 埼玉県西部（東松山・川越・所沢周辺)」が 37 人（6.9%)、「H 群馬県内」45 人（8.4%）となっている。この点は居住地や交通アクセスが影響していると思われる。

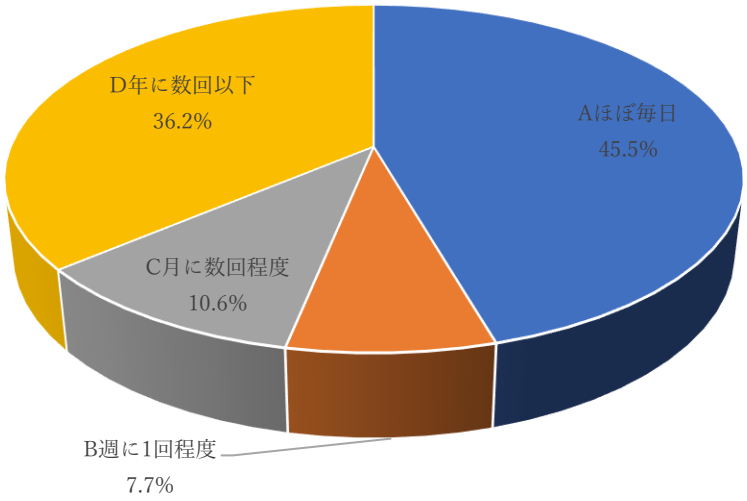


2. 熊谷駅南口の利用頻度（交通機関）

通勤や通学を目的として、自宅から熊谷駅南口に行き来する際の各交通手段の利用頻度について尋ねた。交通手段は、①徒歩、②自転車、③バイク、④自家用車(自分で運転)、⑤自家用車(家族などの送迎)、⑥路線バス、⑦タクシー、⑧鉄道（JR・在来線)、⑨鉄道（JR・新幹線)、⑩鉄道（秩父鉄道）の 10 種類である。以下ではそれぞれの結果について紹介する。なお、交通手段によっては、全く利用していない場合が存在するので、それぞれ回答者数が異なっている。

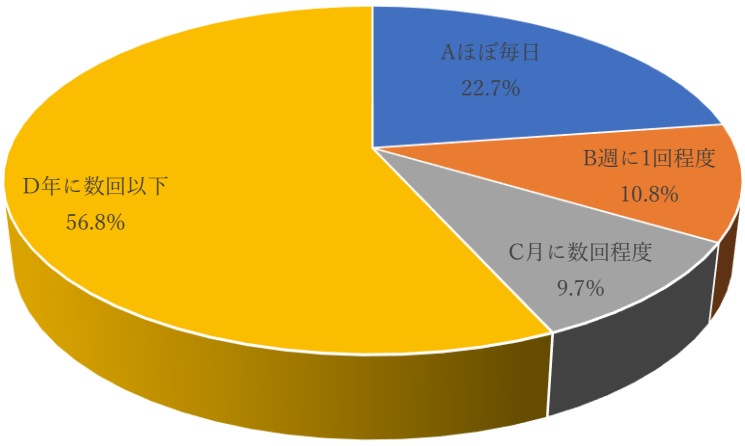
① 徒歩

徒歩を選択した回答者は 235 人であり、今回の交通手段の中で鉄道（JR・在来線）に次いで 2 番目に多かった。学生などの若年層が回答者の中心であったことが影響している。その内訳は、「A ほぼ毎日」が 107 人（45.5%）であった。つまり、南口と自宅、職場、または学校などをほぼ毎日行き来する回答者が半数程度存在することが明らかになった。一方で「D 年に数回以下」も 85 人存在し、4 割近い割合を示した。このように二極化する傾向を示した。また「B 週に 1 回程度」が 18 人（7.7%）、「C 月に数回程度」が 25 人（10.6%）となっている。回答者の中で、週に 1 回程度、徒歩で南口を使用している人は少数であった。



② 自転車

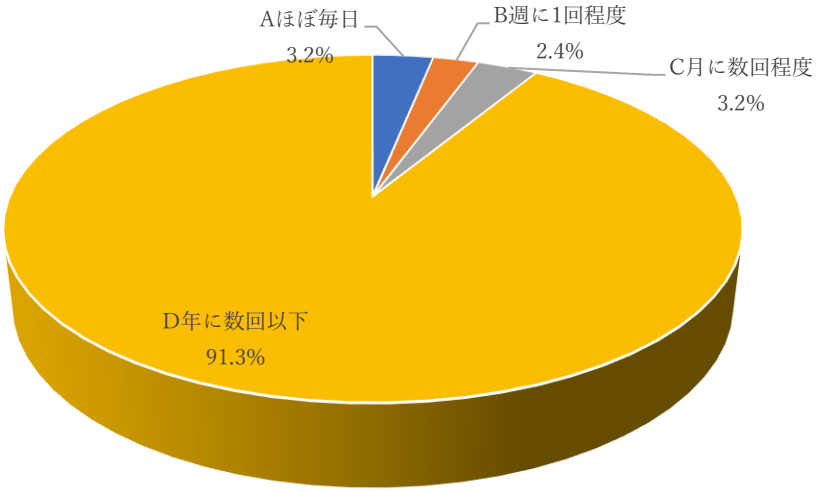
自転車を選択した回答者は 185 人であった。回答者の内訳は「A ほぼ毎日」が 42 人（22.7%）、「B 週に 1 回程度」が 20 人（10.8%）、「C 月に数回程度」が 18 人（9.7%）、「D 年に数回以下」が 105 人（56.8%）となっている。南口にも市営の駐輪場が存在するものの、おそらく週末などの利用に限定さ



れていることが予想される。徒歩と比較して、日常的に通勤や通学での自転車利用者の割合が少ないことが明らかになった。

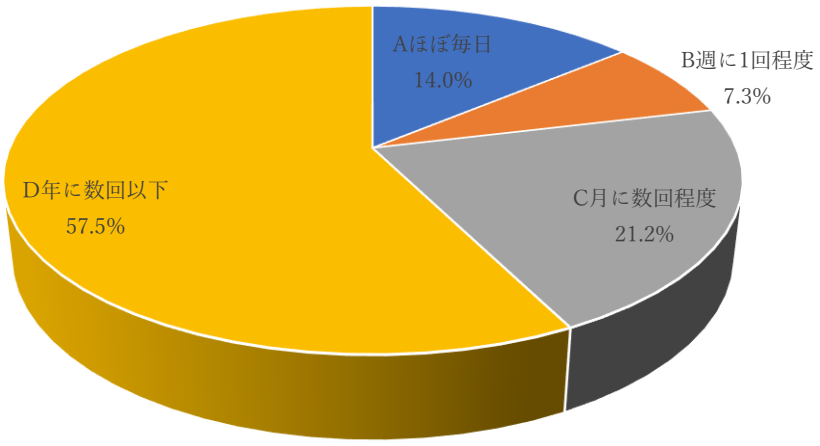
③ バイク

バイクを選択した回答者は 126 人であった。しかしながら、以下のグラフからもわかるように、バイクを通じて南口を利用する回答者は皆無である。その内訳は「A ほぼ毎日」が 4 人（3.2%)、「B 週に 1 回程度」が 3 人（2.4%)、「C 月に数回程度」が 4 人（3.2%)、「D 年に数回以下」が 115 人（91.3%）となっている。駐車するスペースがないことが影響しているのか、またはそもそもバイクに対するニーズ（所有していないなど）が少ないことが原因なのかは不明である。



④ 自家用車(自分で運転)

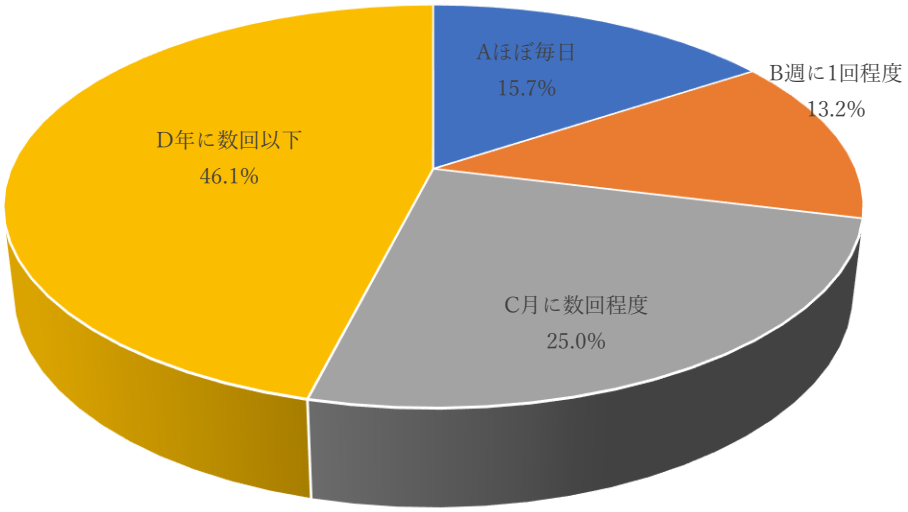
自家用車(自分で運転)を選択した回答者は 193 人であった。その内訳は「A ほぼ毎日」が 27 人(14.0%)、「B 週に 1 回程度」が 14 人（7.3%)、「C 月に数回程度」が 41 人（21.2%)、「D 年に数回以下」が 111



人（57.5%）となっている。自家用車（自分で運転）のほうがバイク利用者よりも回答者が多いことが明らかになった。やはりバイクよりも自動車のほうが生活の足として認識されていることを意味している。

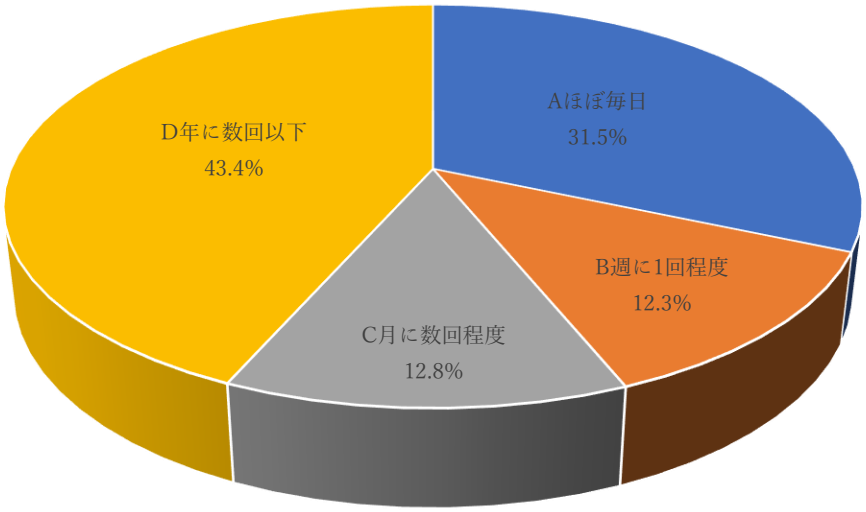
⑤ 自家用車(家族などの送迎)

自家用車(家族などの送迎)を選択した回答者は 204 人であった。自家用車（自分で運転）の回答者数とよりも若干多かった。また「A ほぼ毎日」も 32 人（15.7%）であり、同様の水準であったが、「B 週に 1 回程度」が 27 人（13.2%）と「C 月に数回程度」が 51 人（25.0%）は自家用車（自分で運転）よりも多かった。これは自分では運転できない高校生や中学生の送り迎えが考えられる。一方で「D 年に数回以下」も約半数を占めている。



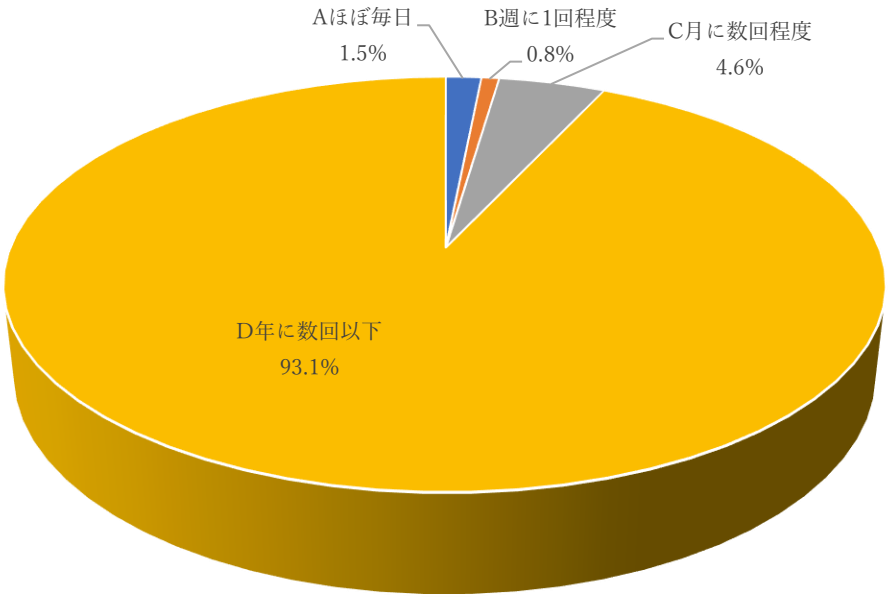
⑥ 路線バス

路線バスを選択した回答者は 219 人であり、これは鉄道（JR・在来線）と徒歩に続く第 3 位であった。また「A ほぼ毎日」も 69 人（31.5%）であり、約 3 割が通学・通勤のために路線バスを使用していることがわかる。この割合も鉄道（JR・在来線）と徒歩に続く第 3 位であった。「B 週に 1 回程度」が 27 人（12.3%）と「C 月に数回程度」が 28 人（12.8%）であり、ほぼ同数であった。一方で「D 年に数回以下」は 95 人（43.4%）であることから、4 割程度の回答者が通勤や通学のために路線バスを使用していないことがわかった。



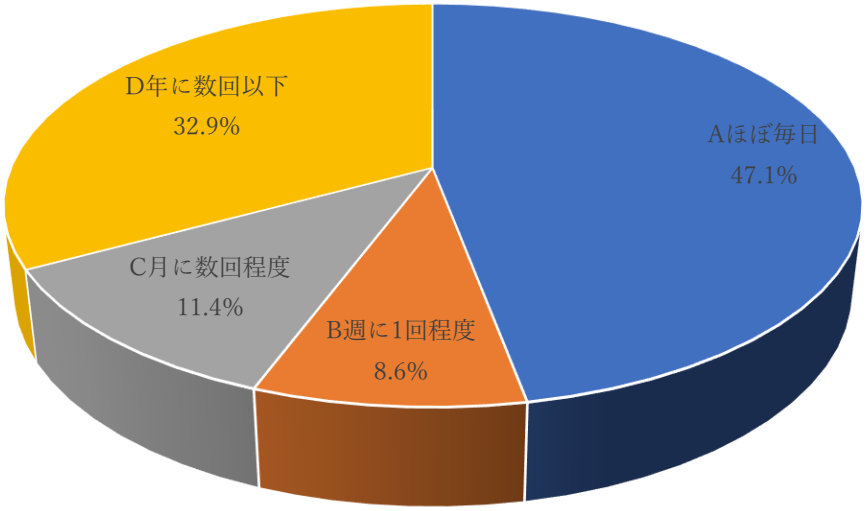
⑦ タクシー

タクシーを選択した回答者は 130 人であった。「D 年に数回以下」が 121 人（93.1%）と 9 割を超える水準にある。それ以外の項目については、「A ほぼ毎日」が 2 人(1.5%)、「B 週に 1 回程度」が 1 人(0.8%)、「C 月に数回程度」が 6 人（4.6%）と皆無の状況である。通勤・通学者にとってはタクシーがほとんど使用されていない実態が明らかになった。日常的に南口を使用している回答者の多くは徒歩や電車（JR・在来線）を使用しているので、タクシーに関しては、出張目的の会社員などが中心であることが考えられる。



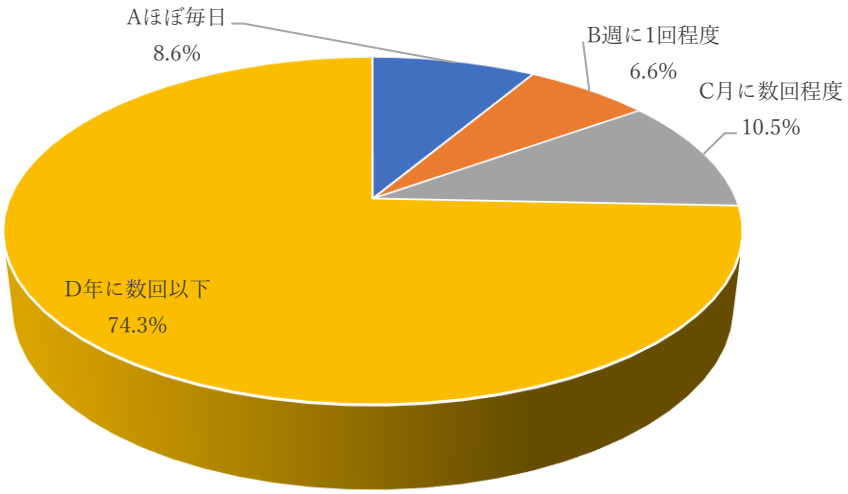
⑧ 鉄道（JR・在来線）

鉄道（JR・在来線）を選択した回答者は 255 人であり、今回の交通手段の中で最大の人数であった。また「A ほぼ毎日」120 人（47.1%）が約半数を占め、この割合も 10 種類におよぶ交通手段の中で最大であった。その他、「B 週に 1 回程度」が 22 人（8.6%）、「C 月に数回程度」が 29 人（11.4%）、「D 年に数回以下」が 84 人（32.9%）となっている。当然のことであるが、「D 年に数回以下」の割合も交通手段の中で、最も低い割合となっている。南口の利用者の中心が JR の在来線であることが明らかになった。



⑨ 鉄道（JR・新幹線）

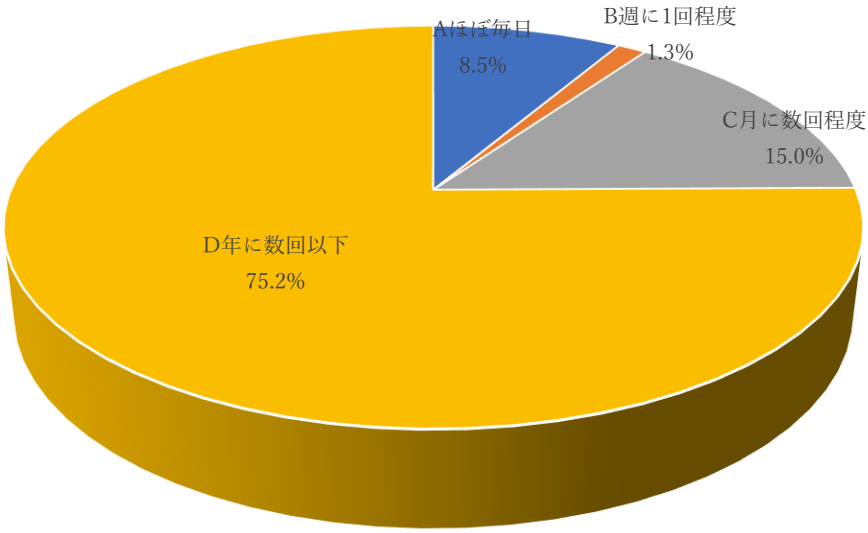
鉄道（JR・新幹線）を選択した回答者は 152 人であった。内訳は「A ほぼ毎日」が 13 人（8.6%）、「B 週に 1 回程度」が 10 人（6.6%）、「C 月に数回程度」が 16 人（10.5%）であることから、通勤・通学者の中で新幹線を使用している回答者は一定程度みられる。「D 年に数回以下」が 113 人（74.3%）であっ



たことから、今回の調査ではバイクやタクシー利用者よりも多いことが明らかになった。新幹線を日常的に使用することは料金の関係上難しいものの、年に数回でも使用する利用者が多ければ、新幹線が停車する駅として意味があると考えられる。

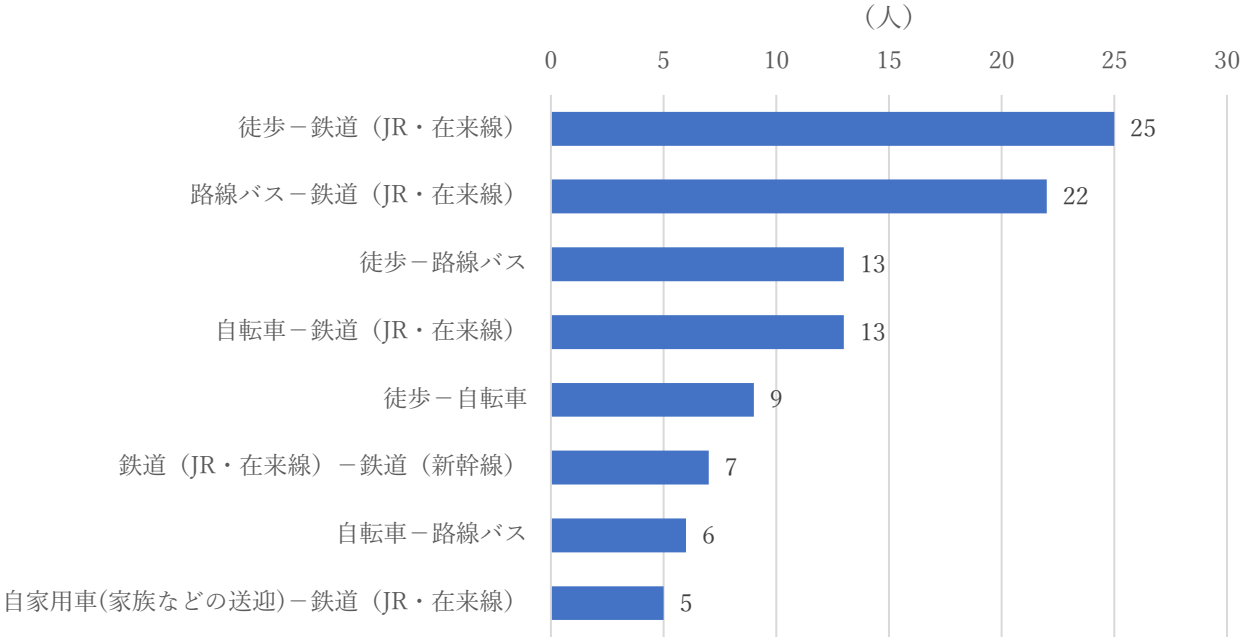
⑩ 鉄道（秩父鉄道）

鉄道（秩父鉄道）を選択した回答者は 153 人であった。これは上記の鉄道（JR・新幹線）とほぼ同数である。内訳も「A ほぼ毎日」が 13 人（8.5%）と鉄道（JR・新幹線）とほぼ同じ割合であった。「B 週に 1 回程度」が 2 人（1.3%）、「C 月に数回程度」が 23 人（15.0%）となり、「B 週に 1 回程度」の人数は鉄道（JR・新幹線）よりも少なかった。そのため、鉄道（秩父鉄道）はその他の鉄道よりも利用状況は少ないことがわかった。回答者における秩父鉄道の利用の少なさは、今回のサンプルが偏っている可能性があることも考えられ、慎重な解釈が必要である。



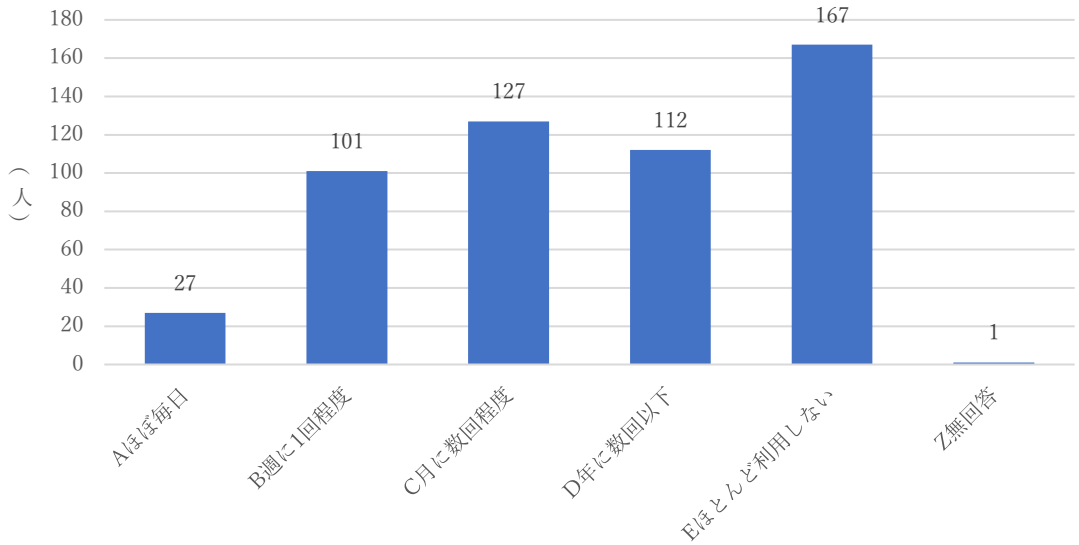
以上で、10 種類の交通手段ごとの利用実態についてみてきた。その結果、回答者が熊谷駅南口を利用する場合の交通手段として、鉄道（JR・在来線）、徒歩、路線バスが中心であることが明らかになった。南口のロータリー広場やバスターミナルの機能が目立つものの、歩行者が一定数存在することは意外であった。そのため、歩道の設置や歩行者の安全の確保などは検討する余地があるといえる。

交通手段の組み合わせについてまとめたのが次の図である。グラフでは、2 つの交通手段で「A ほぼ毎日」を選択した回答者の人数を集計している。今回は 5 人以上の組み合わせのみを抽出した。そこで、最も多かったのが「徒歩－鉄道（JR・在来線）」（25 人）であった。続いて「路線バス－鉄道（JR・在来線）」（22 人）、「徒歩－路線バス」（13 人）、「自転車－鉄道（JR・在来線）」（13 人）という順番になった。おおむね鉄道（JR・在来線）が交通手段の中核になっている。ただし、535 人中に占める割合としては低い結果であることに注意が必要である。



3. 熊谷駅南口の利用頻度（商業施設）

通勤や通学以外の目的(例えば、飲食や買い物)で、熊谷駅南口を利用する頻度について聞いたところ、以下のような結果となった。最も多かったのが「E ほとんど利用しない」167 人（31.2%）であった。一方で「A ほぼ毎日」が 27 人（5.0%）や「B 週に 1 回程度」が 101 人（18.9%）であることから、大きな差異がみられる。通勤や通学の利用頻度の割には少ないことがわかり、多くの回答者が南口を単なる通過場所として認識していることがわかる。その他の項目については、「C 月に数回程度」(127 人、23.7%)と「D 年に数回以下」(112 人、20.9%)が「B 週に 1 回程度」よりも人数が多かった。

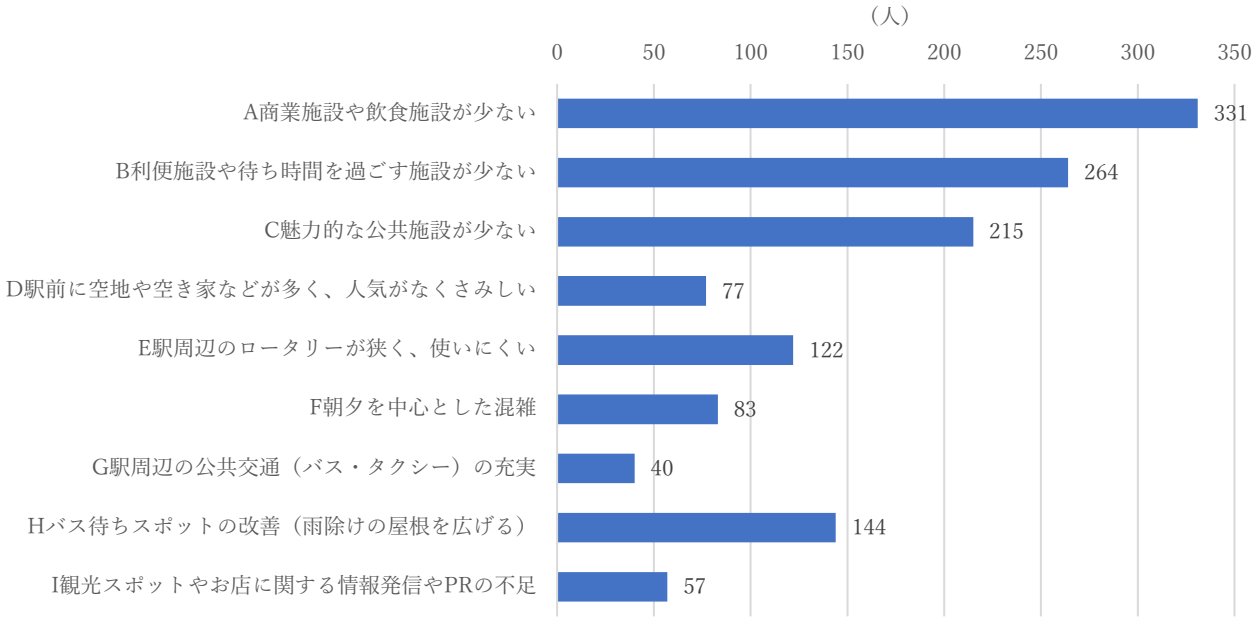


4．現在の熊谷駅南口周辺の改善点（3 つまで）

現在の熊谷駅南口周辺の改善点について、3 つの項目まで選択してくださいと質問したところ、以下のようにまとめることができる。最も回答者が多かったのが「A 商業施設や飲食施設が少ない」の 331 人であり、回答者のうち 61.9%が選択した。やはり南口に商業施設が少ないことを問題視している回答者が多かった。次に「B 利便施設や待ち時間を過ごす施設が少ない」の 264 人（49.3%）であり、約半数を占めた。また「C 魅力的な公共施設が少ない」の 215 人（40.2%）も高かった。このように南口周辺の商業施設を中心としたハード整備の不十分さが課題として考えられている。

「H バス待ちスポットの改善（雨除けの屋根を広げる）」（144 人、26.9%）や「E 駅周辺のロータリーが狭く、使いにくい」122 人（22.8%）も一定数が存在し、南口のハード面の整備についても課題と考えられている。

その他、「F 朝夕を中心とした混雑」（83 人、15.5%）、「D 駅前に空地や空き家などが多く、人気がなくさみしい」（77 人、14.4%）、「I 観光スポットやお店に関する情報発信や PR の不足」（57 人、10.7%）、「G 駅周辺の公共交通（バス・タクシー）の充実」（40 人、7.5%）となっている。



選択肢にはない、その他の改善点として 43 の回答が存在した。その一部の内容を以下で要約する。

- 現状に不満はないので、この状態を維持してほしい。
- ゴミが多いので、きれいにしてほしい。
- タクシーの台数を増やしてほしい。
- バスやタクシー以外の交通手段（シェアサイクル、新交通システムなど）を活用してほしい。
- バスの送迎が多いのに人の流動が生かしきれてない。
- 暗いので、照明設備を増やしてほしい。
- 車道が狭い。
- 一方通行の道が多いので、わかりづらい。

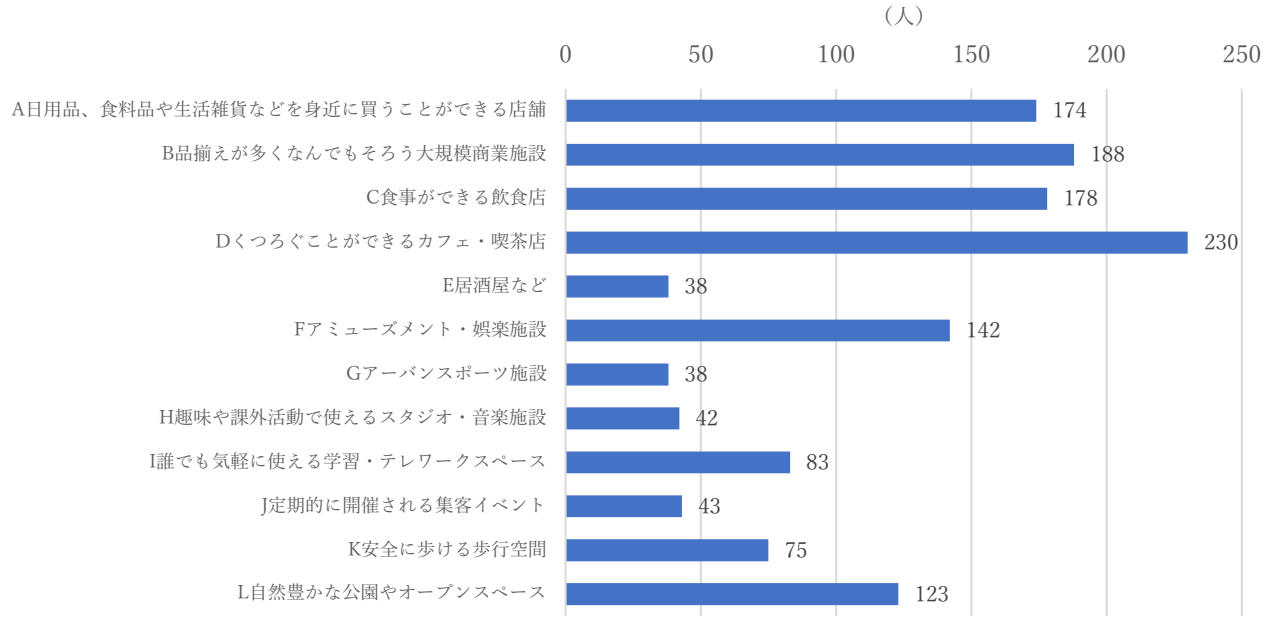
- 家賃相場が高く、お金がない若者にとっては住める街ではないと思います。家賃が高くても住みたいと思えるほど栄えてはいない。
- 花火大会時の駅の入場規制等の混雑対策をしてほしい。
- 歩きたばこをしている人がいるので条例で禁止にしてほしい。
- 景観、美観(ロータリー内にある物置？は至急撤去してほしい)。
- 鳥が集まるだけの巨木をしっかりと管理してほしい。
- 交番がいつも不在で心細い感じがするので、警官を常駐させてほしい。
- 子どもたちが遊べるようなオープンスペースがないので、整備してほしい。
- 治安が悪いので、改善してほしい。
- 図書館が古くて暗いので、整備してほしい。
- 酔っぱらいがたむろしているので、何とかしてほしい。
- 朝夕を中心とした混雑を緩和させてほしい。
- 風俗や怪しい店が多いので、規制してほしい。
- 歩く楽しさがないので、考えてほしい。
- 平場の駐車場が少ないので、整備してほしい。
- 北口と南口の移動をより円滑にしてほしい。

今回の設問では、選択肢の数を 3 つまでと上限を設けての回答であった。もし該当するものすべての形式にしていれば、多くの選択肢が 5 割を超えていたのではないかという印象である。それだけ、南口に対して住民の切実な要望が存在しているのではないかと考えられる。

5．熊谷駅南口周辺が魅力的になるために必要なもの（3 つまで）

「熊谷駅南口周辺に何があれば、もっと魅力的なまちになると思いますか」と尋ね、3 つまで選択肢をあげてもらったところ、以下のような結果になった。最も回答者が多かったのが、「D くつろぐことができるカフェ・喫茶店」（230 人、43.0%）であり、4 割を超えた。さらに「B 品揃えが多くなんでもそろう大規模商業施設」（188 人、35.1%)、「C 食事ができる飲食店」（178 人、33.3%)、「A 日用品、食料品や生活雑貨などを身近に買うことができる店舗」（174 人、32.5%）や「F アミューズメント・娯楽施設」（142 人、26.5%）が続く。やはりカフェ、商業施設や娯楽施設に対するニーズが多数存在することが明らかになった。

一方で「L 自然豊かな公園やオープンスペース」（123 人、23.0%)、「I 誰でも気軽に使える学習・テレワークスペース」（83 人、15.5%）や「K 安全に歩ける歩行空間」（75 人、14.0%）にもある程度の回答者が存在している。そのため、必ずしも商業施設を整備すれば解決するのではなく、利便性や環境との調和などにも関心があることがわかる。「J 定期的に開催される集客イベント」（43 人、8.0%)、「H 趣味や課外活動で使えるスタジオ・音楽施設」（42 人、7.9%)、「E 居酒屋など」（38 人、7.1%）や「G アーバンスポーツ施設」（38 人、7.1%）などの項目は回答者が少なかった。



その他の魅力的になるために必要な意見として 27 の回答があった。その一部の内容を要約すると、以下のような多様な意見となっている。

- 特にないので、このままで十分である。
- アウトレットモールやディスカウントストアがほしい。
- 娯楽施設がほしい。
- お土産屋・惣菜屋がほしい。
- タピオカ屋がほしい。
- 医療施設があるとありがたい。
- 駅直結のラグビー・スタジアムがあれば、避難場所にもなってよいのではないか。
- 公園や児童館がほしい。
- 公共施設・図書館・美術館・博物館・ホールなどを駅前に整備すべきではないか。
- 駐車場をもっと使いやすくしてほしい。

上記の回答からも、回答者の多くが商業施設や娯楽施設などの設置を有していることがわかった。やはり北口と比較して、南口は寂れている印象を有しているので、商業施設の開発が最も効果的であると思われる。

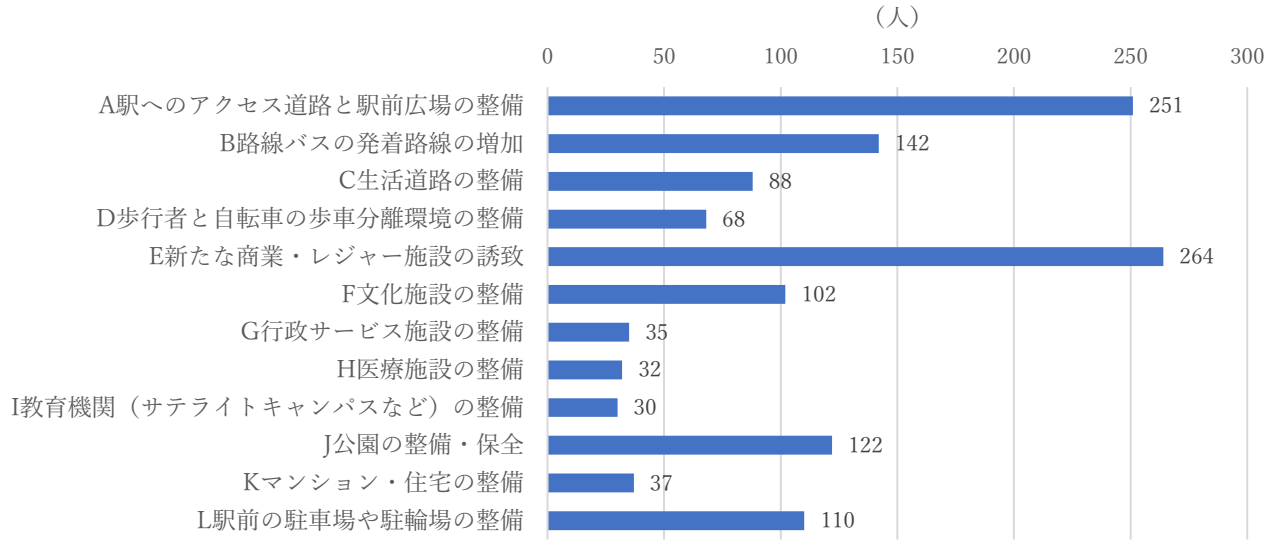
6．熊谷駅南口活性化に必要な方策（3 つまで）

「熊谷駅南口周辺の活性化を推進するために、あなたが必要と感じる方策は何ですか」と尋ねたところ、以下のような結果となった。最も回答者が多かったのが「E 新たな商業・レジャー施設の誘致」（264 人、49.3%）であった。やはり前問と同様、南口で中核となるような商業施設の設置を望む声が多かった。同時に「A 駅へのアクセス道路と駅前広場の整備」（251 人、46.9%）も同じような数値であることから、

道路環境の改善も望む声も多い。この 2 つの選択肢の要望を同時に満たすことは困難な課題であるため、慎重に方策を考える必要がある。

この 2 つの項目に続くものとして、「B 路線バスの発着路線の増加」（142 人、26.5%）、「J 公園の整備・保全」（122 人、22.8%）、「L 駅前の駐車場や駐輪場の整備」（110 人、20.6%）、「F 文化施設の整備」（102 人、19.1%）、「C 生活道路の整備」（88 人、16.4%）や「D 歩行者と自転車の歩車分離環境の整備」（68 人、12.7%）があげられる。やはり単なる商業施設の開発だけではなく、利便性、生活環境やインフラの改善など多様なニーズが存在している。

一方で「K マンション・住宅の整備」（37 人、6.9%）、「G 行政サービス施設の整備」（35 人、6.5%）、「H 医療施設の整備」（32 人、6.0%）や「I 教育機関（サテライトキャンパスなど）の整備」（30 人、5.6%）などの回答者は少数であった。



選択肢にはない、その他の必要な方策として 21 の回答が存在し、多様な意見がみられた。その一部を以下で紹介する。

- 特になし。
- 周辺の駐車場を含めた駐車場の整備が必要である。
- バスの発着所の整備（スクールバス、観光バス、長距離バスなど）が必要である。
- バスの本数や行先を増加させる必要がある。
- 電線地中化などで狭い道路でも安心して通行できるようにする必要がある。
- 周辺道路の渋滞を解消させる必要がある。
- 治安の改善やゴミがない、きれいな駅前を維持することが必要である。
- ロータリーを整備する必要がある。
- 街灯を追加する必要がある。
- 荒川までの経路で花や木々に囲まれた広くて綺麗な道路や公園を整備する必要がある。
- カフェを含む飲食店、バーや居酒屋、シェアオフィスなどを整備する必要がある。

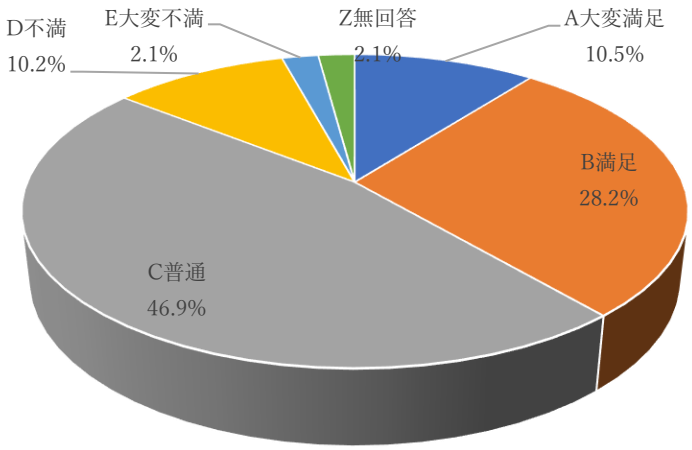
7．熊谷駅南口広場ロータリー、ならびに周辺環境についての満足度

熊谷駅南口広場ロータリーに関する満足度について項目別にまとめる。ただし「わからない」の選択肢は削除し、集計をしている。

① 歩行者に対する安全性・配慮

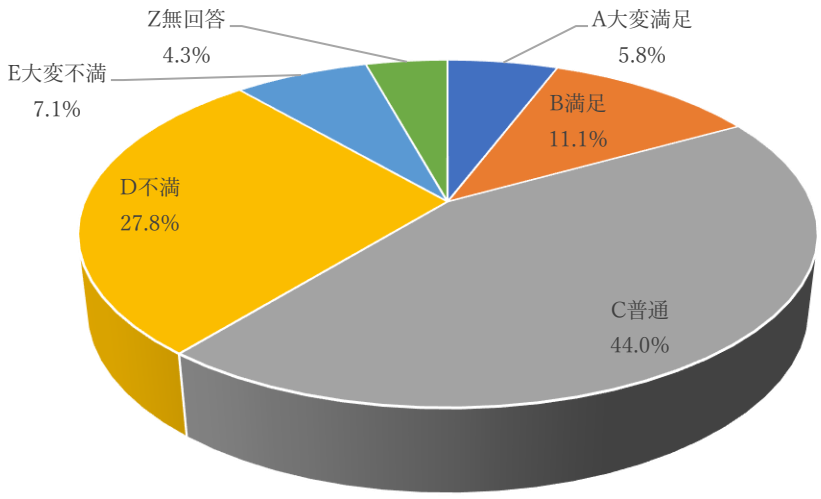
歩行者に対する安全性・配慮について尋ねたところ、その内訳は、「A 大変満足」が 55 人（10.5%）、「B 満足」が 147 人（28.2%）、「C 普通」が 245 人（46.9%）、「D 不満」が 53 人（10.2%）、「E 大変不満」が 11 人（2.1%）、「Z 無回答」が 11 人（2.1%）という結果になった。「C 普通」の回答者が半数近くを占めた。

アンケート調査において、「C 普通」の解釈が最も難しい。「C 普通」といっても、それは無関心の裏返しを意味することもある。そのため、満足項目、ならびに不満足項目の数値を中心に以下でも説明する。その結果、歩行者に対する安全性・配慮については満足の数値が高かった。



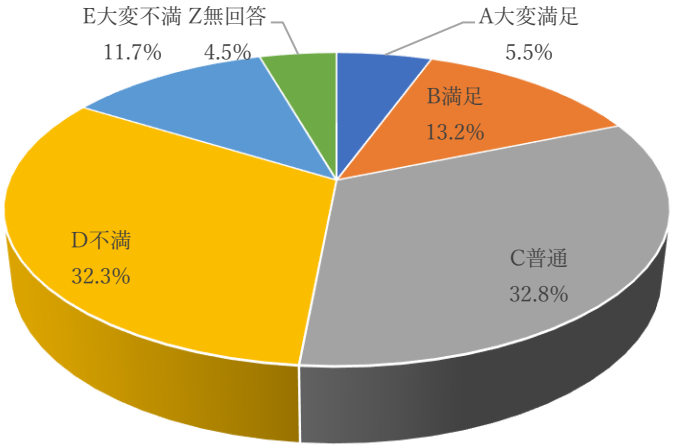
② 自動車の通行しやすさ

自動車の通行しやすさについて尋ねたところ、その内訳は、「A 大変満足」が 27 人（5.8%）、「B 満足」が 52 人（11.1%）、「C 普通」206 人（44.0%）、「D 不満」が 130 人（27.8%）、「E 大変不満」が 33 人（7.1%）、「Z 無回答」が 20 人（4.3%）という結果になった。「C 普通」が最も多いものの、「D 不満」と「E 大変不満」の合計が「A 大変満足」と「B 満足」のそれよりも 2 倍以上である。自動車を利用しない回答者を除外した場合、南口では自動車が通行しにくいと考えている回答者が多数であることがわかる。



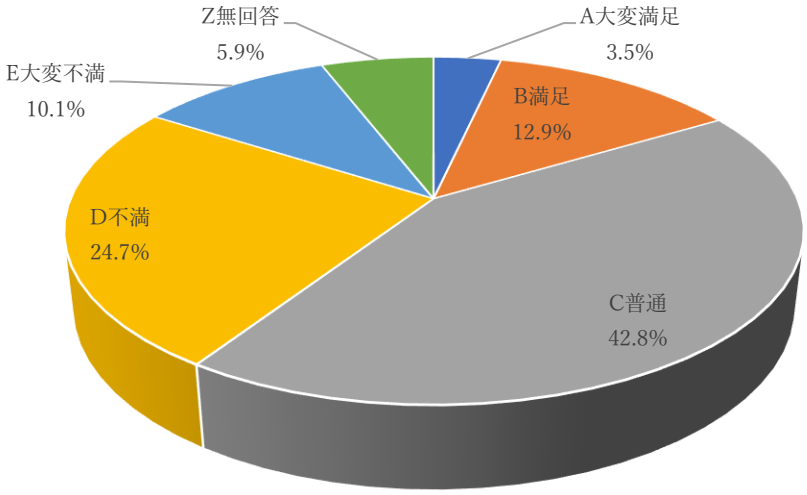
③ 自動車の送迎利用のしやすさ

自動車の送迎利用のしやすさについて尋ねたところ、その内訳は、「A 大変満足」が 26 人（5.5%）、「B 満足」が 62 人（13.2%）、「C 普通」が 154 人（32.8%）、「D 不満」が 152 人（32.3%）、「E 大変不満」が 55 人（11.7%）、「Z 無回答」が 21 人（4.5%）となっている。「D 不満」の割合が「C 普通」とほぼ同数となっている。また「D 不満」と「E 大変不満」の合計が前問よりも増加し、約半数となっている。この結果、自動車の送迎利用についても多くの回答者が不満を有していることがわかる。



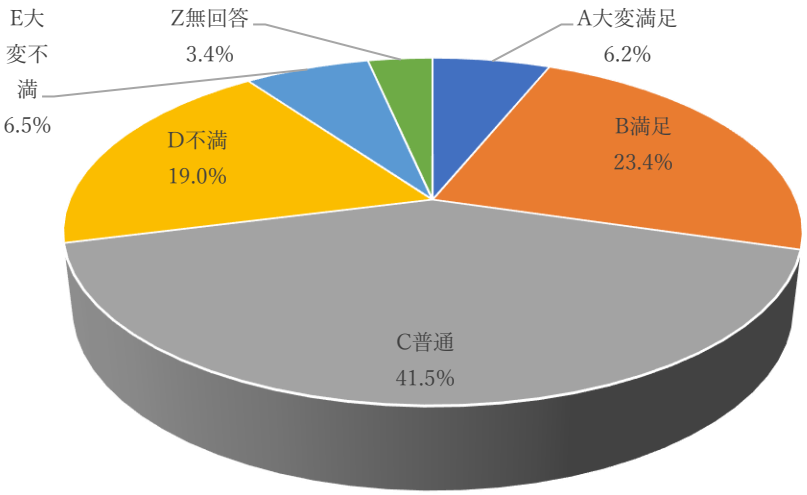
④ ロータリー内の市営駐車場の利用のしやすさ

ロータリー内の市営駐車場の利用のしやすさについて尋ねたところ、その内訳は、「A 大変満足」が 15 人（3.5%）、「B 満足」が 55 人（12.9%）、「C 普通」が 182 人（42.8%）、「D 不満」が 105 人（24.7%）、「E 大変不満」が 43 人（10.1%）、「Z 無回答」が 25 人（5.9%）となっている。「D 不満」と「E 大変不満」の合計が③自動車の送迎利用のしやすさよりは改善したものの、依然として 3 割を超える水準となっている。



⑤ バス乗り場の利用のしやすさ

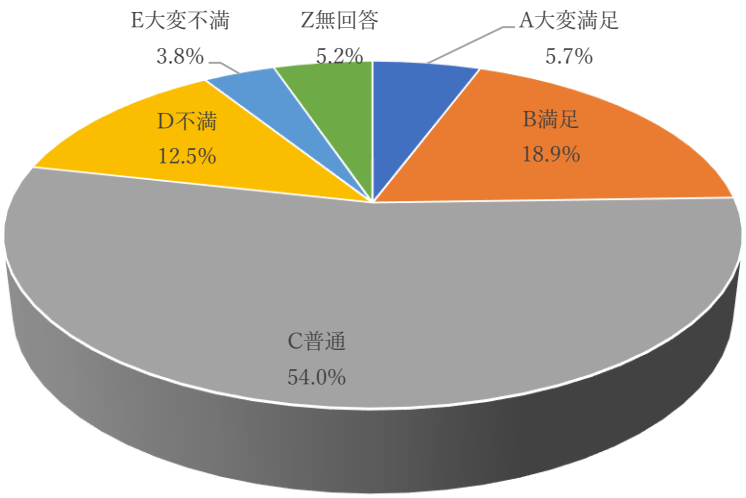
バス乗り場の利用のしやすさについて尋ねたところ、その内訳は、「A 大変満足」が 31 人（6.2%）、「B 満足」が 118 人（23.4%）、「C 普通」が 209 人（41.5%）、「D 不満」が 96 人（19.0%）、「E 大変不満」が 33 人（6.5%）、「Z 無回答」が 17 人（3.4%）となっている。前問 3 つと比較すると、「D 不満」と「E 大変不満」の合計が減少している。一方で「A 大変満足」と「B 満足」の合計が 3 割近くになっている。この結果、おおむねバス乗り場の利用のしやすさについては満足しているものと考えられる。



⑥ タクシー乗り場の利用のしやすさ

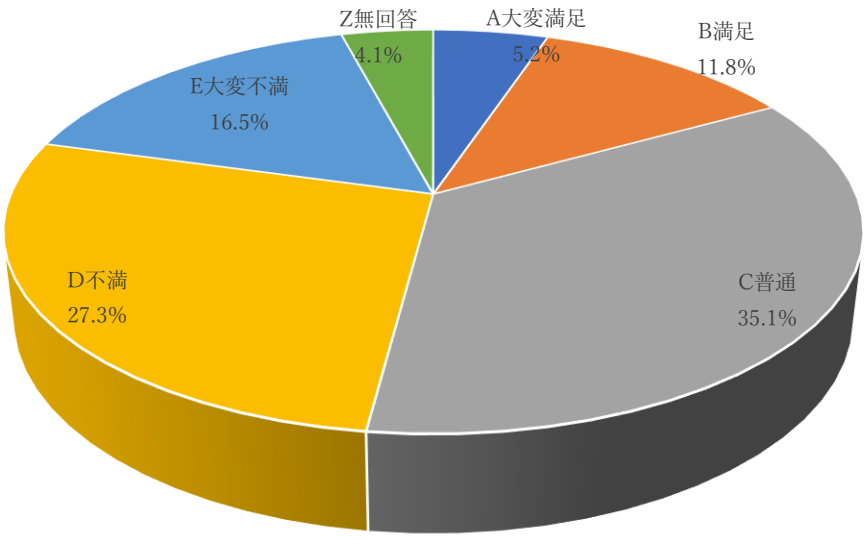
タクシー乗り場の利用のしやすさについて尋ねたところ、その内訳は、「A 大変満足」が 24 人（5.7%）、「B 満足」が 80 人（18.9%）、「C 普通」が 229 人（54.0%）、「D 不満」が 53 人（12.5%）、「E 大変不満」が 16 人（3.8%）、「Z 無回答」が 22 人（5.2%）となっている。ロータリー関連の設問において、「C 普

通」の割合が最大であった。すべての項目の中で「C 普通」の割合が最も高かったことから、上記でも述べたように、回答者の関心の薄さも影響していることが考えられる。



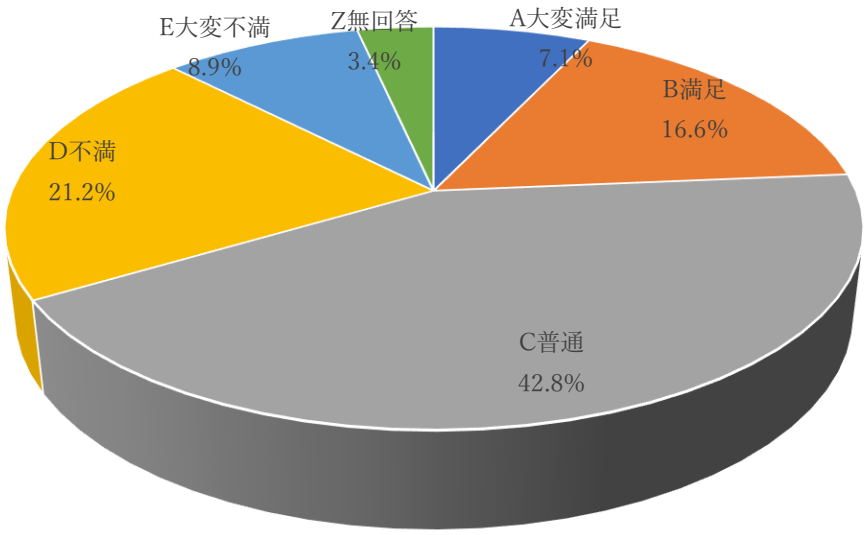
⑦ トイレの利用のしやすさ

トイレの利用のしやすさについて尋ねたところ、その内訳は、「A 大変満足」が 25 人（5.2%）、「B 満足」が 57 人（11.8%）、「C 普通」が 170 人（35.1%）、「D 不満」が 132 人（27.3%）、「E 大変不満」が 80 人（16.5%）、「Z 無回答」が 20 人（4.1%）となっている。「D 不満」と「E 大変不満」の合計が自動車の送迎利用のしやすさと同様に高い割合であった。つまり、トイレに関しても回答者の多くが不満を有していることがわかった。自由回答などの意見を紹介すると、場所や清潔さに対する不満の声がみられた。



⑧ 夜間照明の明るさ

夜間照明の明るさについて尋ねたところ、その内訳は、「A 大変満足」が 35 人（7.1%）、「B 満足」が 82 人（16.6%）、「C 普通」が 212 人（42.8%）、「D 不満」が 105 人（21.2%）、「E 大変不満」が 44 人（8.9%）、「Z 無回答」が 17 人（3.4%）となっている。「D 不満」と「E 大変不満」の合計が 3 割を超えているので、夜間照明に関して回答者が不満を有していることがわかる。しかしながら、③自動車の送迎利用のしやすさや⑦トイレの利用のしやすさほどの不満ではないことがわかった。

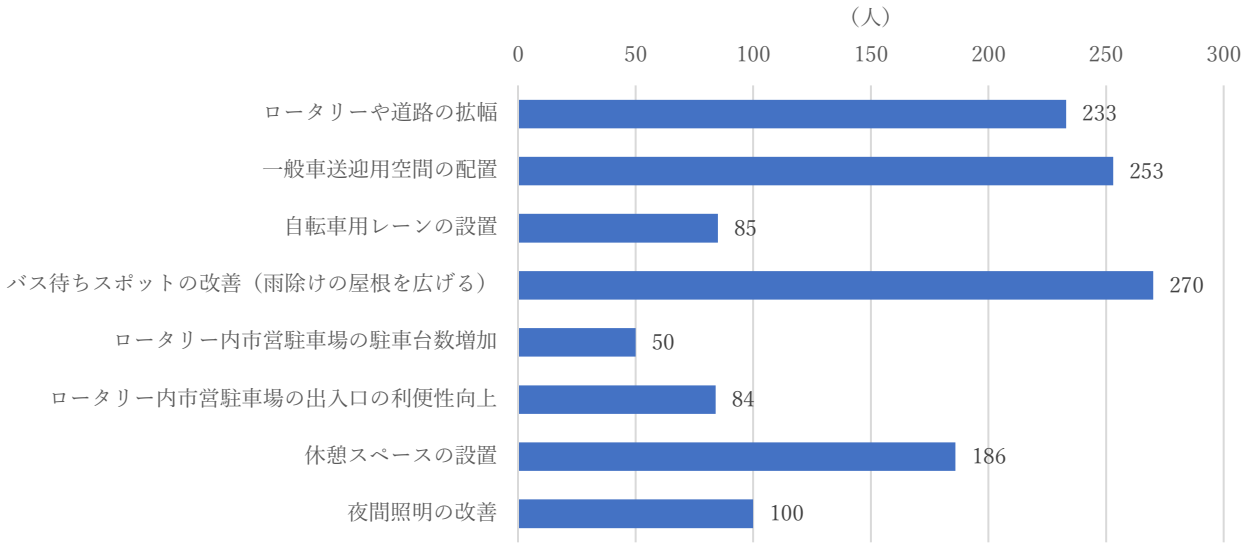


熊谷駅南口広場ロータリー、ならびに周辺環境についての満足度に関する 8 つの項目をまとめると、明らかに②自動車の通行しやすさと③自動車の送迎利用のしやすさに対して不満を有していることがわかる。自動車を普段使用していない階層も含めてこのような結果となったことは大きな問題である。④ロータリー内の市営駐車場の利用のしやすさや⑦トイレの利用のしやすさも含めて、ロータリーのあり方については議論する余地がある。また、満足のほうが高かったのは、⑤バス乗り場の利用のしやすさと⑥タクシー乗り場の利用のしやすさだけであった。タクシーについては関心の薄さを考慮すると、バス乗り場の利用のしやすさのみ満足している。

8. 熊谷駅南口広場ロータリーのための対策（3 つまで）

熊谷駅南口広場ロータリーを利用しやすくするために、どのような対策が必要ですかと尋ねたところ、以下のような結果となった。最も多かったのが「バス待ちスポットの改善（雨除けの屋根を広げる）」（270 人、50.5%）であった。続いて「一般車送迎用空間の配置」（253 人、47.3%）、「ロータリーや道路の拡幅」（233 人、43.6%）と「休憩スペースの設置」（186 人、34.8%）があげられる。

一方で、「夜間照明の改善」が 100 人（18.7%）、「自転車用レーンの設置」が 85 人（15.9%）、「ロータリー内市営駐車場の出入口の利便性向上」が 84 人（15.7%）、ならびに「ロータリー内市営駐車場の駐車台数増加」が 50 人（9.3%）となり、結果は二極化する傾向にある。



選択肢にはない、その他の対策として、16 人が意見を述べた。その内容を以下で整理した。やはり多様な意見がみられた。

- スクールバス発着所の創設
- バス待ちスポットの改善とベンチなどの設置
- トイレの移動、清潔の維持
- ロータリー内市営駐車場は不要
- 南口での開発の必要性のなさ。現状維持の必要性
- 南口発着のバス路線追加
- 自動車の乗り入れの禁止
- 放置自転車の取り締まり

9．自由回答

「熊谷駅南口周辺全般に関して、ご意見等がございましたら、ご自由に記入してください」と尋ねたところ、134 の意見がみられた。これは全体の 4 分の 1 に相当する割合である。その概要を分類すると、次表のようにまとめることができる。 1 人の回答者が複数の内容を述べているので、合計が 134 に一致しない。可能な限りグルーピングを行うことを心掛けていたため、内容をある程度取捨選択していることに注意が必要である。また「特に意見がない」と記入した回答者が 2 人存在している。

自由回答の内容	人数
商業施設の少なさや整備をもとめる意見	32
歩道や道路の整備（混雑問題など）を要望する意見	26
北口と比較し，違いを述べる意見	14
治安の悪さを指摘する意見	13
バス乗り場の改善を要望する意見	11
公共施設の整備や改善（図書館，休憩所など）をもとめる意見	11
南口の現状（静かさなど）を評価する意見	10
南口の現状（寂びれ具合など）を嘆く意見	10
有料駐車場の整備，または余剰駐車場の活用をもとめる意見	10
バスの本数や運行情報の少なさに関する意見	10
駅前だけではなく，荒川までの一体の整備計画を望む意見	6
ロータリーの樹木や鳥に対する不満	5
レンタル自転車などの交通手段の整備をもとめる意見	3
これまでの行政の政策に対する不満を述べる意見	3
公衆トイレに対する不満	3
街灯の整備をもとめる意見	3
イベントの実施を望む意見	3
ロータリーの美化を望む意見	2
人流の増加を望む意見	2
安全や防災整備に関する意見	2
アンケート調査に対する意見	2
ロータリーの改善を望む意見	1
電車のアクセス利便性の向上をもとめる意見	1
駐車料金の安さを評価する意見	1
自転車のマナー改善をもとめる意見	1
喫煙所の改善に関する意見	1
低家賃の賃貸住宅をもとめる意見	1
集計	**187**

表の内容からもわかるように、熊谷駅南口に対して多種多様な意見が述べられている。最も多かったのが「商業施設の少なさや整備をもとめる意見」（32 人）であった。自由回答を記入した回答者の 4 分の 1 を占める。この内容は上記の単純集計結果と整合するものである。具体的には、大型商業施設、スーパーマーケット、ファミリーレストラン、アミューズメント施設、飲食店、居酒屋、カフェ、またはチェーン店ではない個人経営のカフェなど多岐にわたる。商業施設といっても回答者の要望には差異がある。た

だし、スーパーマーケットの設置に関する意見はその中でも多数存在していた。このことから多くの回答者が生活の利便性の向上をもとめていることが読み取れる。

次に多かったのが、「歩道や道路の整備（混雑問題など）を要望する意見」（26 人）である。熊谷駅南口の朝晩のロータリーの混雑の緩和を望む意見が多い傾向にあった。ロータリーの道路幅が狭いことから、停車中の乗用車の影響で、バスの停車や発進が困難な状況がよくみられることを嘆く意見も存在した。また一方通行の多さがドライバーにとってストレスとなっていること、自動車と歩行者の完全分離を望むこと、自動車においても、路線バス、一般乗用車、スクールバスなどの駐停車スペースの分離を望むことなど、多種多様な意見がみられた。同時にロータリーの整備だけではなく、その手前の道路の狭さも問題であるので、広域で整備することをもとめる意見も存在した。

3 番目は「北口と比較する意見、または差別化をもとめる意見」（14 人）である。南口は静寂な空間であるので、北口と比較して寂れていることは事実であるが、北口と同じようなまちづくりを望まないという趣旨であった。同時に南口と北口のアクセスの改善をもとめる意見もあった。下位の「公共施設の整備や改善（図書館、休憩所など）をもとめる意見」（11 人）や「駅前だけではなく、荒川までの一体整備を望む意見」（ 6 人）でもみられたが、南口周辺の環境を活かして、公園、美術館、図書館や体育館の整備をもとめる意見、子供を安心して遊ばせることのできる環境の整備、文化的な空間ゾーンの整備などをもとめる意見もみられた。

「バス乗り場の改善を要望する意見」（11 人）においては、最も多かったのがバス停の雨除け屋根の拡大を望むものである。スクールバスを待つ学生が大雨の中で待たなければいけない状況が最近増えていることを訴える意見が存在した。最近では最高気温が 35℃を超える猛暑日もあり、健康に影響するので、早急な対策が必要となる可能性がある。

「南口の現状を評価する意見」（10 人）と「南口の現状を嘆いている意見」（10 人）は同数となっているが、計測の仕方によってはその数字が異なる可能性もある。最近の熊谷市の開発計画に強く反対している人の中には現状の南口を肯定する意見もみられる。一方で、新幹線が停車する駅にも関わらずこの寂れた状況はその潜在能力を十分に活かしきれていないという意見も存在し、「残念である」や「もったいない」などの声がみられた。今回のアンケートの結果については、後者であるネガティブな意見が多数であったものの、南口の現状を強く望む意見も少数ながら存在している。少数とはいえ、全く無視してもよいというわけではない。

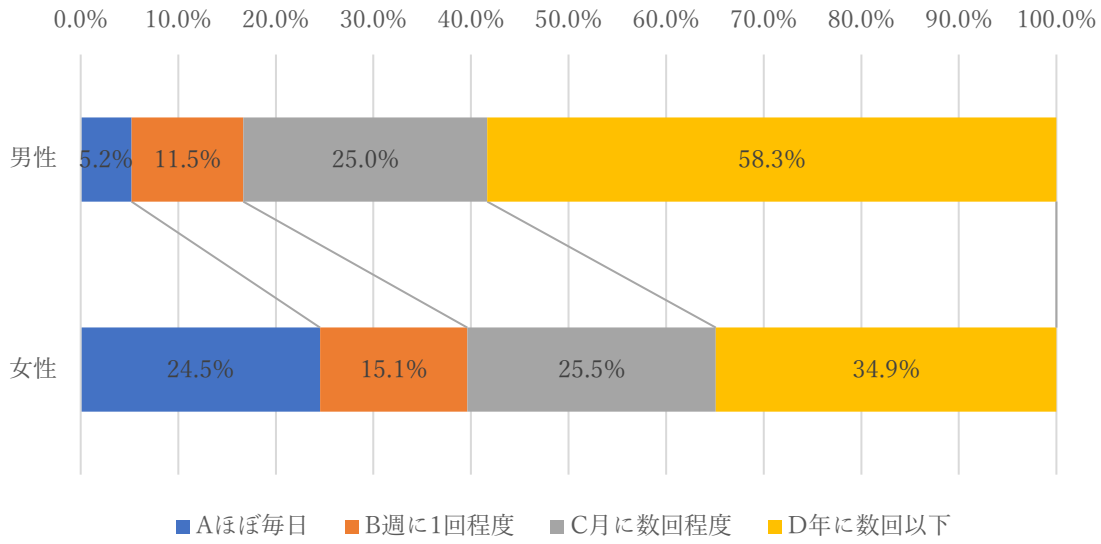
すべての結果の解説を行うことはできないが、いずれにせよ、南口をめぐる問題点は山積していることがこの自由回答の結果からも明らかになった。

Ⅳ. クロス集計結果

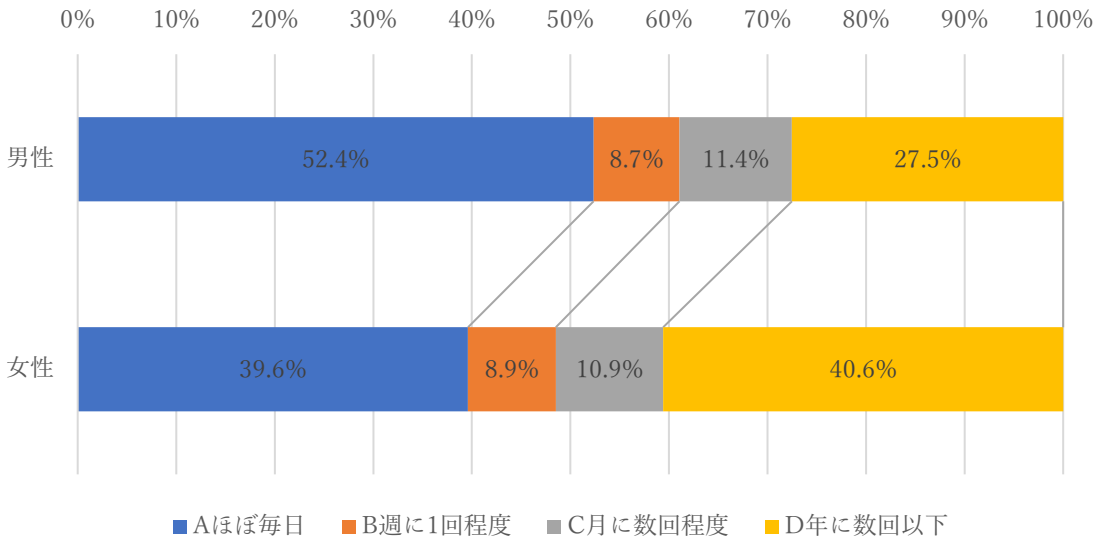
前章では各設問についての回答者数を集計し、その結果を示している。しかし、今回の調査ではさまざまな階層が存在しているので、属性別に回答内容が異なる可能性がある。以下ではクロス集計の結果をまとめる。ただし、すべての項目について取り上げることはできないので、一部の結果について説明する。クロス集計は、設問数を増やすことでより詳細に分析することも可能となるが、その場合は回答者が少なくなり解釈が難しくなるので、今回は 2 重クロス集計分析のみとする。

1．性別と熊谷駅南口の利用頻度（交通機関）の関係

性別により熊谷駅南口の利用頻度（交通機関）の関係についてみたところ、多くの設問で回答に差がみられなかった。しかし、自家用車(家族などの送迎)については、女性のほうが利用頻度が高い傾向があった。その結果は以下のグラフで示している。具体的には「A ほぼ毎日」は、男性が 5.2%（5 人）に対し、女性が 24.5%（26 人）となっている。さらに 26 人の内訳をみると、高校生が 11 人を占めていた。つまり通学時に両親に南口まで送り迎えをしてもらう女子高校生が一定数存在していることがわかった。

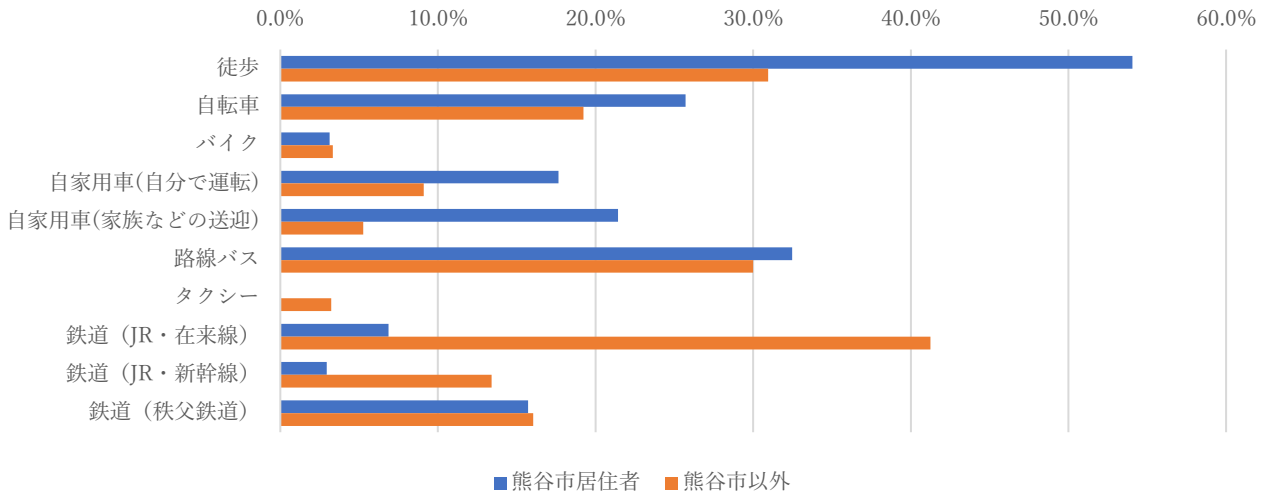


また、鉄道（JR・在来線）については、男性のほうが利用頻度が高かった。以下のグラフのように、「A ほぼ毎日」は、男性が 52.4%（78 人）であるのに対し、女性が 39.6%（40 人）であった。逆に「D 年に数回以下」の割合は女性のほうが男性よりも高い傾向にある。78 人の内訳をみると、大学生・大学院生・専門学校生の人数が 53 人を占めていた。つまり、JR 熊谷駅から南口を経由して通学する学生（おそらく立正大学の学生）がかなり存在していることがわかった。



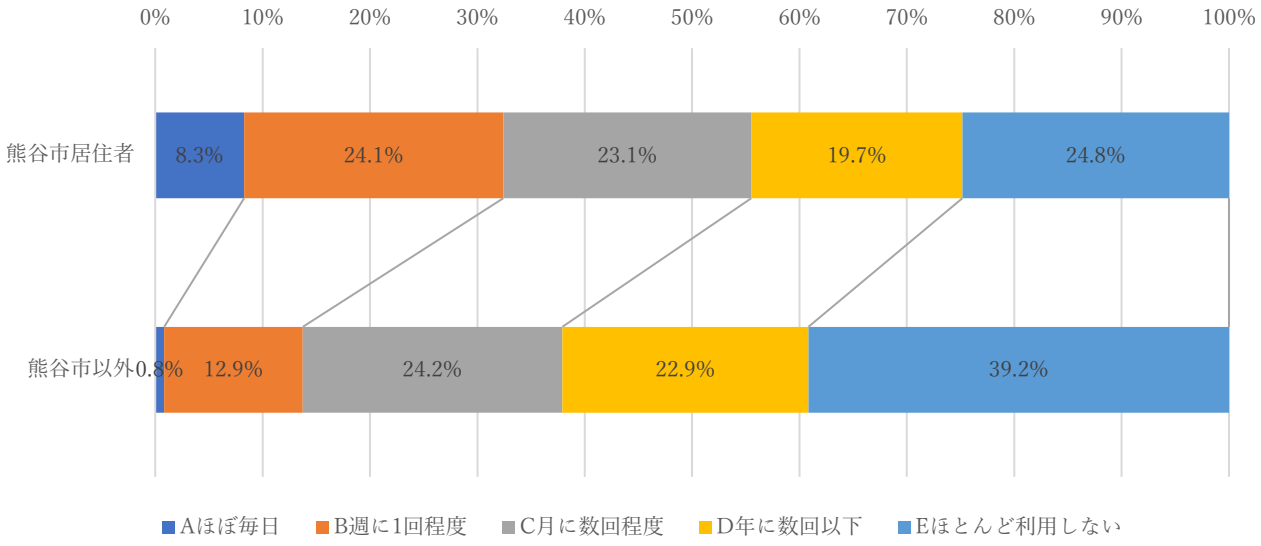
2．居住地と熊谷駅南口の利用頻度（交通機関）の関係

居住地と熊谷駅南口の利用頻度（交通機関）の関係について調べると、居住地が異なり、多くの項目が少数回答者となるため解釈が難しい。そこで熊谷市内居住者とそれ以外に分類した（不明は除く）。その結果は以下のようになる。熊谷市内居住者の場合、「A ほぼ毎日」の割合は、徒歩 54.1%、自転車 25.7%、バイク 3.1%、自家用車(自分で運転)17.7%、自家用車(家族などの送迎)21.4%、路線バス 32.5%、電車（JR・在来線）6.9%、電車（JR・新幹線）2.9%、電車（秩父鉄道）15.7%となっている。タクシーに関しては「A ほぼ毎日」を選択している回答者は皆無であった。一方で熊谷市以外の場合、徒歩 31.0%、自転車 19.2%、バイク 3.3%、自家用車(自分で運転)9.1%、自家用車(家族などの送迎)5.3%、路線バス 30.0%、タクシー3.2%、電車（JR・在来線）41.3%、電車（JR・新幹線）13.4%、電車（秩父鉄道）16.1%となっている。徒歩、自動車利用と電車（JR）において、熊谷市内居住者とそれ以外の地域において大きな差が存在している。当然のことではあるが、徒歩は熊谷市民、一方で電車は熊谷市外居住者が中心であることがわかる。



3．居住地と熊谷駅南口の利用頻度（商業施設）の関係

居住地と熊谷駅南口の利用頻度（商業施設）について分析する。上記と同様に熊谷市居住者とそれ以外に分けている。上記でも説明したように、全体でも南口における活動は少なかったが、熊谷市内居住者の「A ほぼ毎日」の割合は、8.3%（24 人）であるのに対し、熊谷市以外のそれは 0.8%（2 人）となっている。このことから熊谷市外の居住者にとって、南口は単なる通過場所であることが明らかになった。



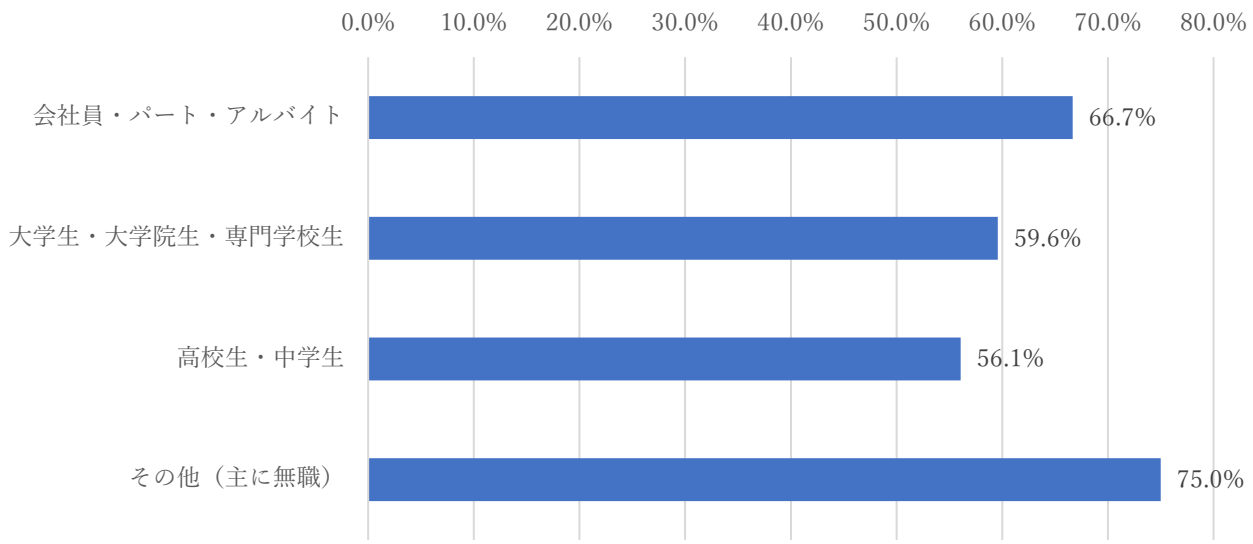
4．属性別の現在の熊谷駅南口周辺の改善点（3 つまで）

「現在の熊谷駅南口周辺の改善点について 3 つまで選択してください」と訊いたところ、全体の結果は、「A 商業施設や飲食施設が少ない」、「B 利便施設や待ち時間を過ごす施設が少ない」や「C 魅力的な公共施設が少ない」の 3 項目が上位を占めた。ここでは性別や居住地などの属性によって差異があるのかを分析する。

性別でみた場合、いずれの項目も大きな差異は存在しなかった。割合に大きな差があった項目として、「B 利便施設や待ち時間を過ごす施設が少ない」があげられる。男性が 46.2%（133 人）、女性が 53.3%（128 人）である。それゆえ、改善点については性別によって相違はないと思われる。

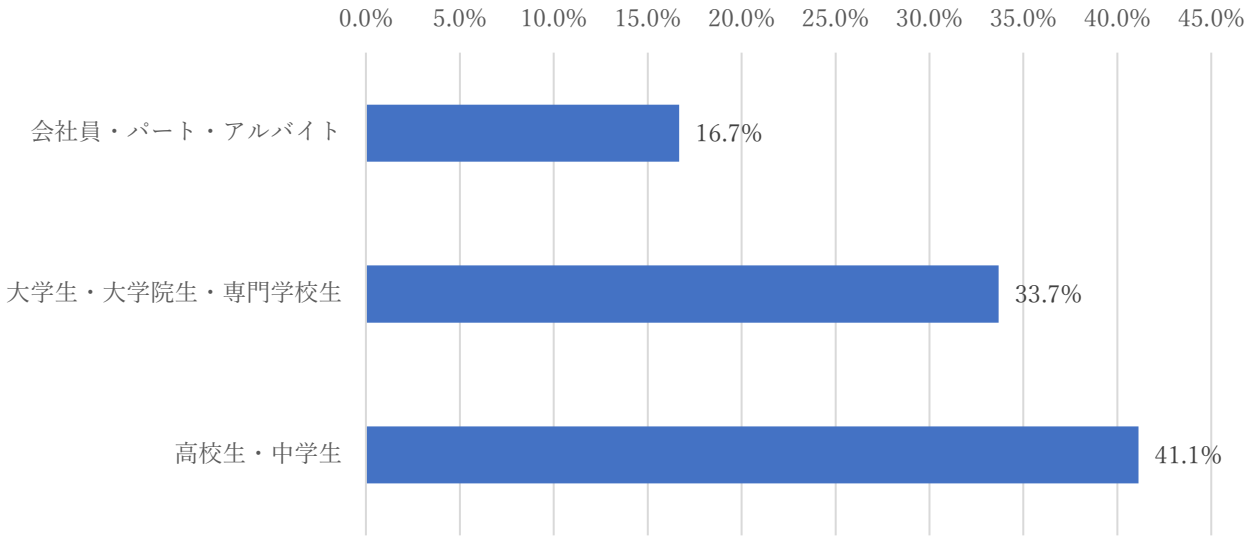
一方で、職業別でみた場合、多くの項目で割合の差がみられる。すべての項目を取り上げると結果がわかりにくくなるので、ここでは「会社員（契約社員、派遣社員含む）」と「パート・アルバイト（学生を除く）」、「高校生」と「中学生」をそれぞれ統合することにした。その結果、「会社員・パート・アルバイト」、「大学生・大学院生・専門学校生」、「高校生・中学生」、ならびに「その他（主に無職）」の 4 つに分類して分析を行う。

属性別に差異がみられる項目として、「A 商業施設や飲食施設が少ない」と回答した属性別の割合は次のグラフの通りである。「会社員・パート・アルバイト」が 132 人（66.7%）と最も高く、「大学生・大学院生・専門学校生」（115 人、59.6%）と「高校生・中学生」（78 人、56.1%）が続いている。ちなみに「その他（主に無職）」は 6 人（75.0%）であった。



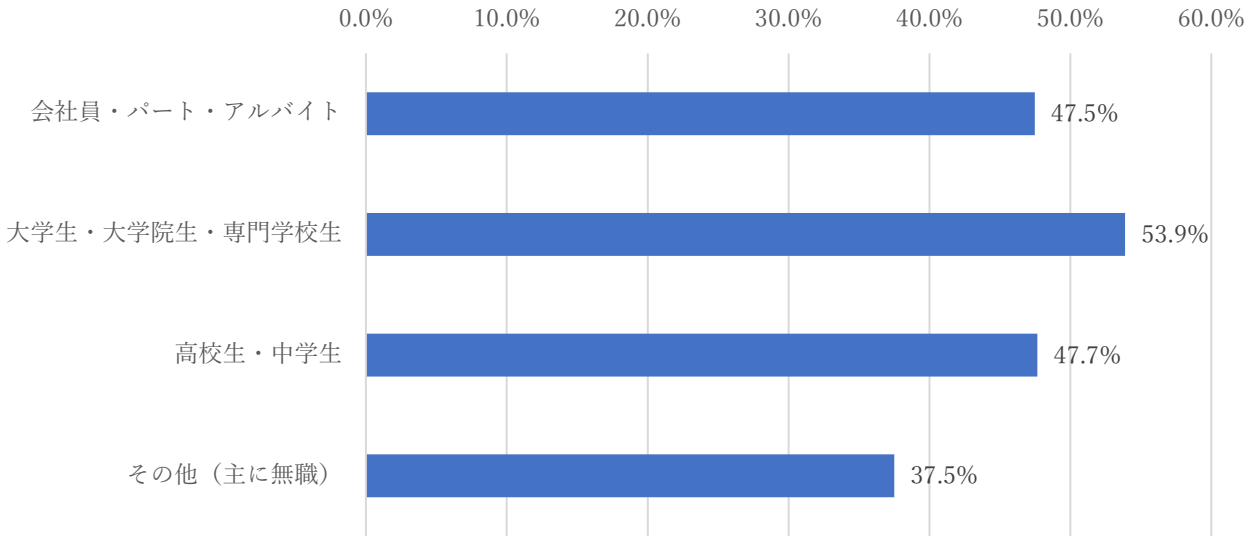
このように、「会社員・パート・アルバイト」のみが高い選択肢としては、「D 駅前に空地や空き家などが多く、人気がなくさみしい」、「E 駅周辺のロータリーが狭く、使いにくい」、「F 朝夕を中心とした混雑」があげられる。

次に学生である「大学生・大学院生・専門学校生」と「高校生・中学生」が高い回答率を示した項目として、「H バス待ちスポットの改善（雨除けの屋根を広げる）」があげられ、以下のグラフのように示すことができる。「会社員・パート・アルバイト」が 33 人（16.7%）であるのに対し、「大学生・大学院生・専門学校生」が 65 人（33.7%）、さらに「高校生・中学生」が 44 人（41.1%）となっている。なお、「その他（主に無職）」については回答者が存在しなかった。

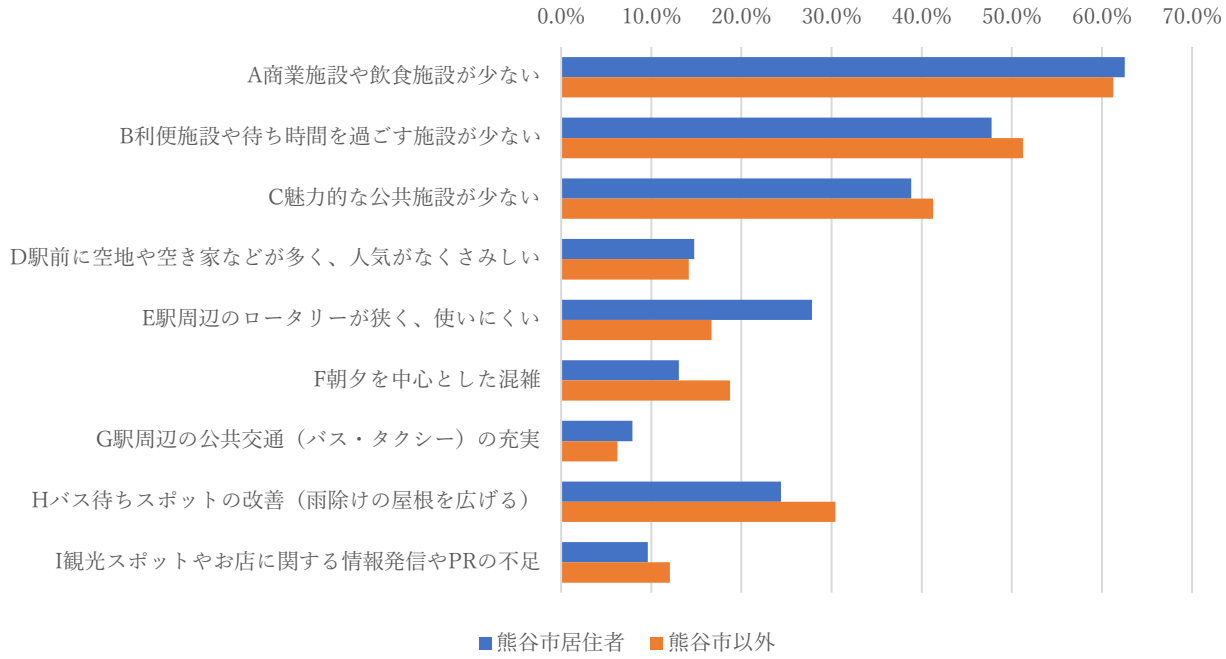


学生のほうが路線バスやスクールバスなどの利用頻度が高いことから、バス待ちスポットの改善を望む意見が多かったと思われる。同様の結果は、「C 魅力的な公共施設が少ない」においてもみられた。つまり学生を中心に無料で手軽に時間を過ごせるスペースをもとめていることがわかった。

また、「大学生・大学院生・専門学校生」のみが高い選択肢としては、「B 利便施設や待ち時間を過ごす施設が少ない」があげられ、その結果は以下のようにまとめることができる。「大学生・大学院生・専門学校生」が 104 人（53.9%）であるのに対し、「会社員・パート・アルバイト」が 94 人（47.5%）、ならびに「高校生・中学生」が 51 人（47.7%）となっている。「その他（主に無職）」は 3 人（37.5%）であった。自由度が高い大学生にとって南口で時間を有効に利用できることができれば、頻度が増加し、賑わいが生まれることが予想される。



居住地別でみた場合の結果は以下のようにまとめることができる。熊谷市内居住者とそれ以外に分けた場合、その差が 10%を超える項目として「E 駅周辺のロータリーが狭く、使いにくい」があげられる



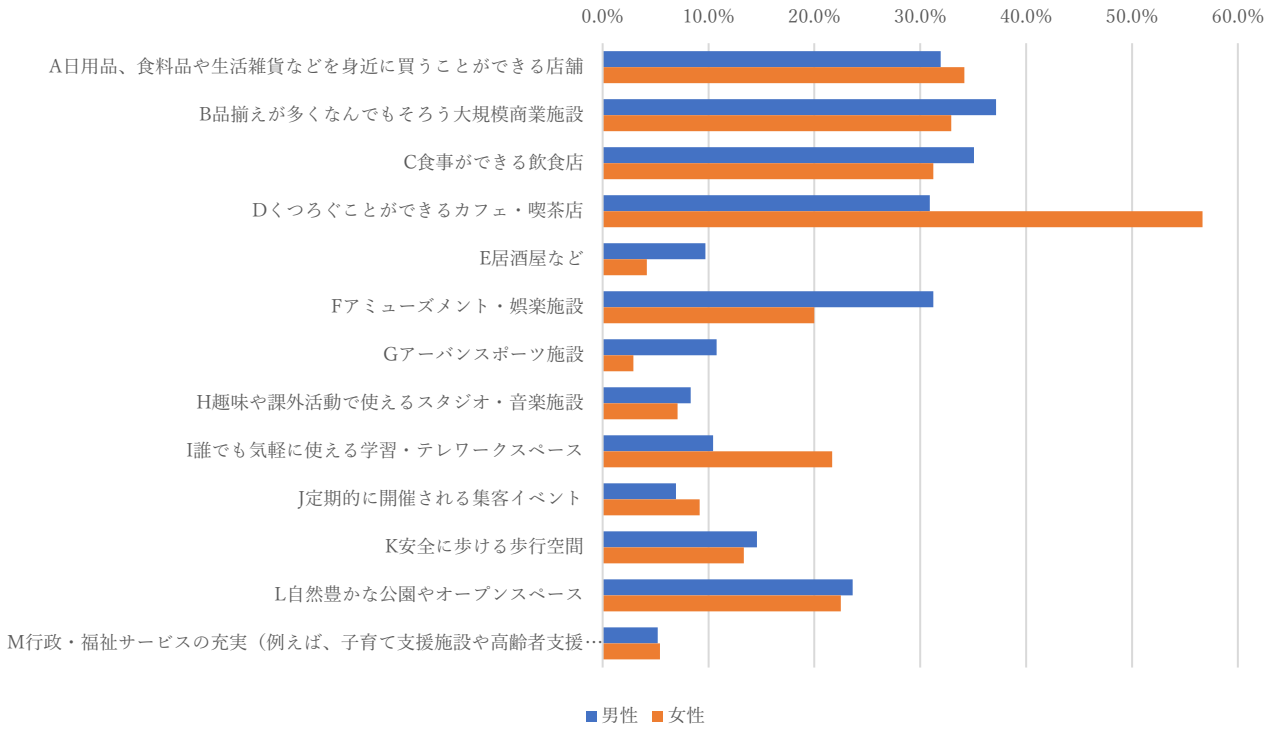
（熊谷市内居住者 27.8%、熊谷市以外 11.2%）。おそらく熊谷市内の自動車利用者の不満度が高いことが原因である。その他の項目については 10%を超えることとはなかった。つまり熊谷市民とそれ以外の改善点はおおむね同意見であると考えられる。

5．属性別の熊谷駅南口周辺が魅力的になるために必要なもの（3 つまで）

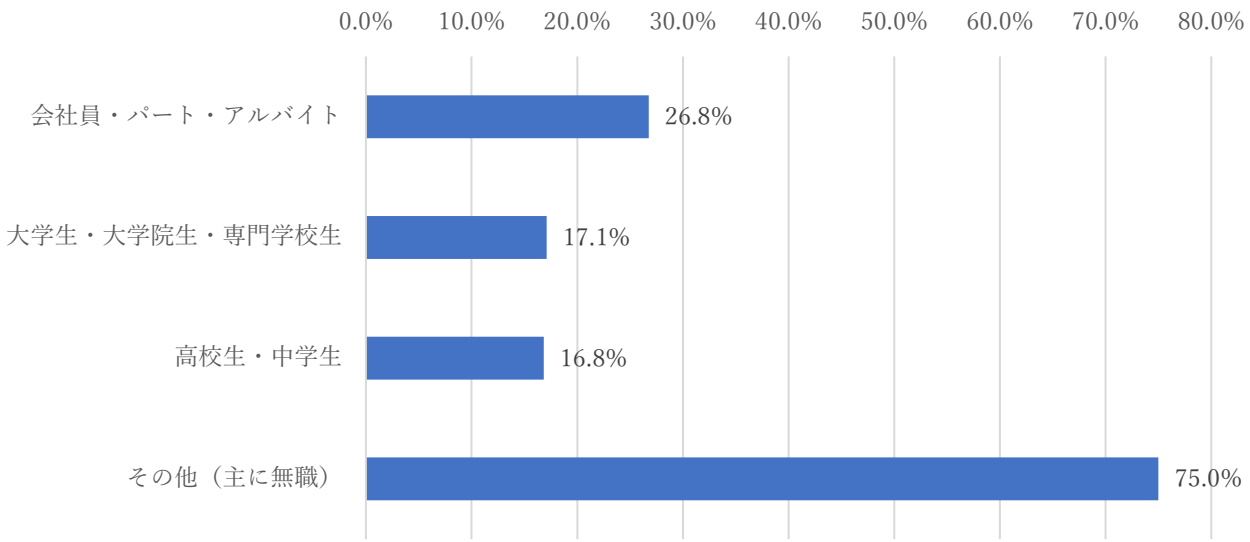
「熊谷駅南口周辺が魅力的になるために必要なものについて 3 つまで選択してください」と訊いたところ、「D くつろぐことができるカフェ・喫茶店」、「B 品揃えが多くなんでもそろう大規模商業施設」、「C 食事ができる飲食店」、「A 日用品、食料品や生活雑貨などを身近に買うことができる店舗」や「F アミューズメント・娯楽施設」が全体として高い割合となっていた。

属性別に回答割合について分析する。前問と同様に、性別、職業別、ならびに居住地別を使用する。まず性別についてみたところ、「A 日用品、食料品や生活雑貨などを身近に買うことができる店舗」、「B 品揃えが多くなんでもそろう大規模商業施設」や「C 食事ができる飲食店」について男性と女性で割合に大きな差がなかった。

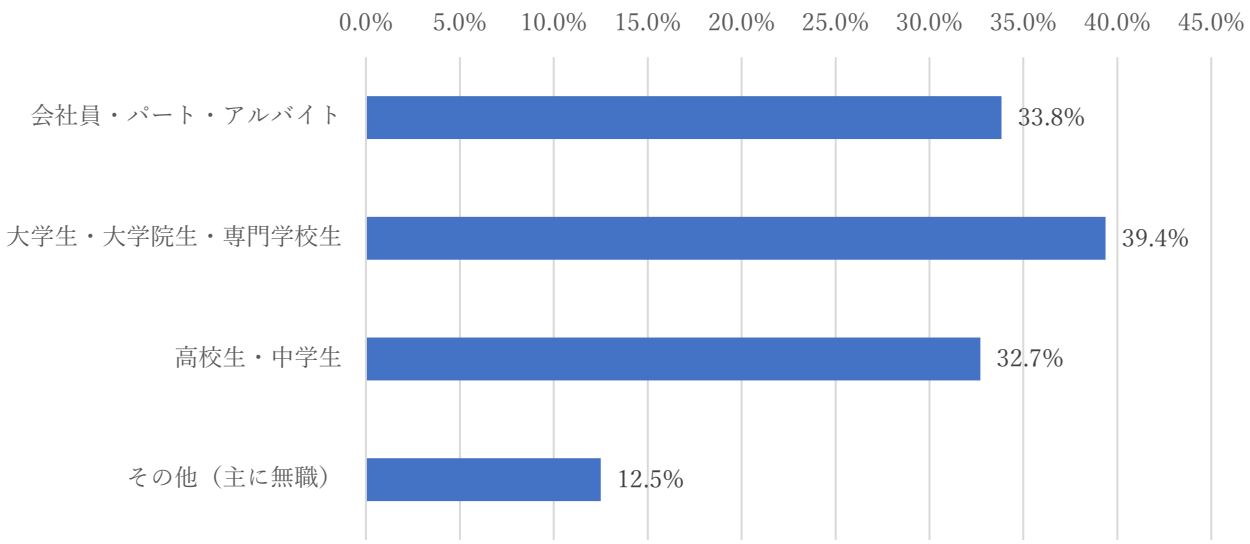
しかし、「F アミューズメント・娯楽施設」については、男性が 31.3%（90 人）、女性が 20.0%（48 人）と男性のほうが 10%以上高かった。男性の方が南口に娯楽施設をもとめていることがわかった。一方で女性のほうが高かった項目として、「D くつろぐことができるカフェ・喫茶店」（男性 30.9%、女性 56.7%）、ならびに「I 誰でも気軽に使える学習・テレワークスペース」（男性 10.4%、女性 21.7%）が存在する。2 つの項目において高校生の回答者の貢献が顕著であった。高校生を中心に学習スペースのニーズがあることが考えられる。



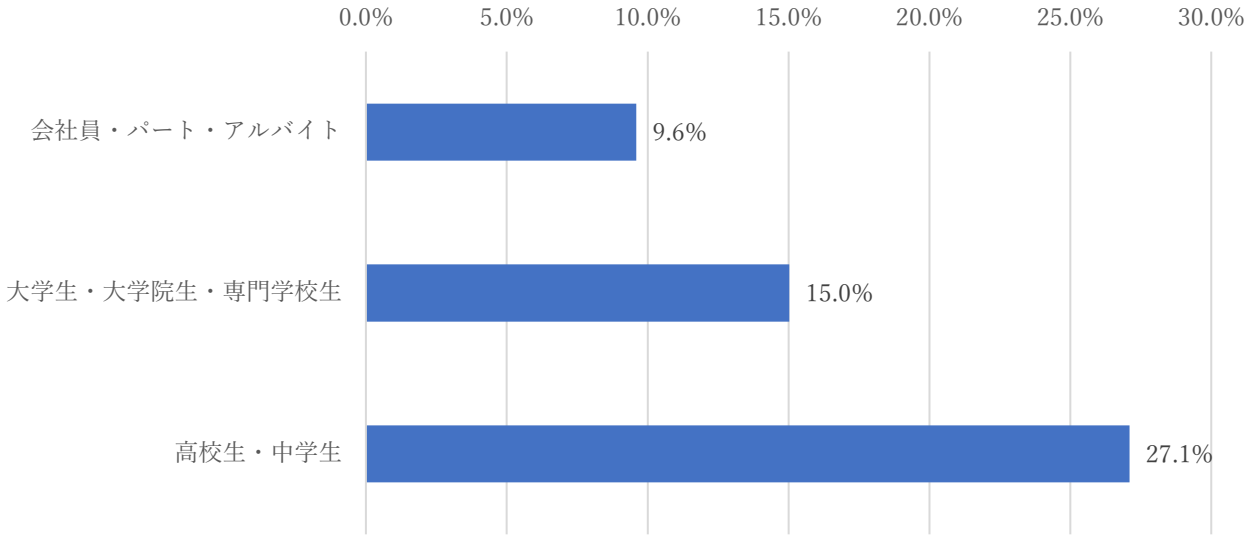
次に職業別についてみていく。前問と同様、4 つの階層［会社員・パート・アルバイト、大学生・大学院生・専門学校生、高校生・中学生、その他（主に無職）］に分類する。まず、「会社員・パート・アルバイト」のみが高い回答率を記録した選択肢として、「L 自然豊かな公園やオープンスペース」があげられる。その結果は以下のグラフに示している。「会社員・パート・アルバイト」が 53 人（26.8%）であるのに対し、「大学生・大学院生・専門学校生」が 33 人（17.1%）、および「高校生・中学生」が 18 人（16.8%）である。「その他（主に無職）」は 6 人（75.0%）となっている。「会社員・パート・アルバイト」が高かった理由として、南口近くに子供を安心して遊ばせることができる空間を望んでいることが考えられる。また「会社員・パート・アルバイト」において、「C 食事ができる飲食店」や「K 安全に歩ける歩行空間」も「会社員・パート・アルバイト」の回答率が高かった。



次に大学生のみが高い選択肢として、「B 品揃えが多くなんでもそろう大規模商業施設」があげられる。「大学生・大学院生・専門学校生」が 76 人（39.4%）であるのに対し、「会社員・パート・アルバイト」が 67 人（33.8%）、ならびに「高校生・中学生」が 35 人（32.7%）となっている。「その他（主に無職）」は 1 人（12.5%）であった。この選択肢以外で、大学生のみが高いものは存在しなかった。

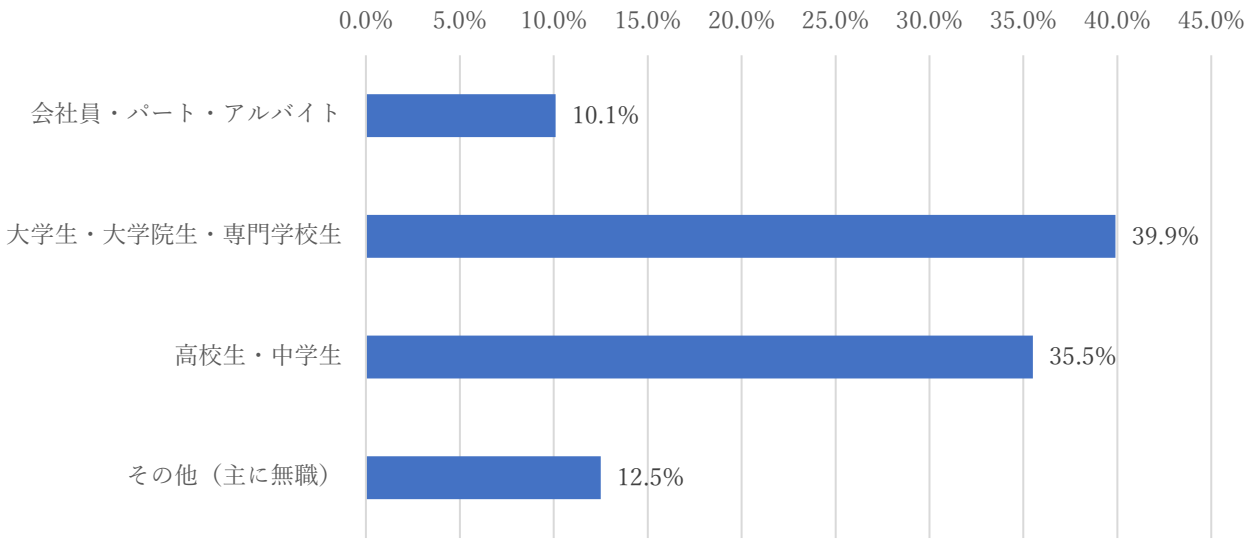


「高校生・中学生」のみが高い選択肢として、「H 誰でも気軽に使える学習・テレワークスペース」があげられる。「高校生・中学生」が 29 人（27.1%）であるのに対し、「大学生・大学院生・専門学校生」が 29 人（15.0%）、ならびに「会社員・パート・アルバイト」が 19 人（9.6%）となっている。「その他（主に無職）」は回答者が存在しなかった。上記でも述べたように「高校生・中学生」の一部が放課後などで、駅前で無料の学習スペースをもとめていることが明らかになった。その他に「高校生・中学生」のみが高い割合を示した選択肢は存在しなかった。

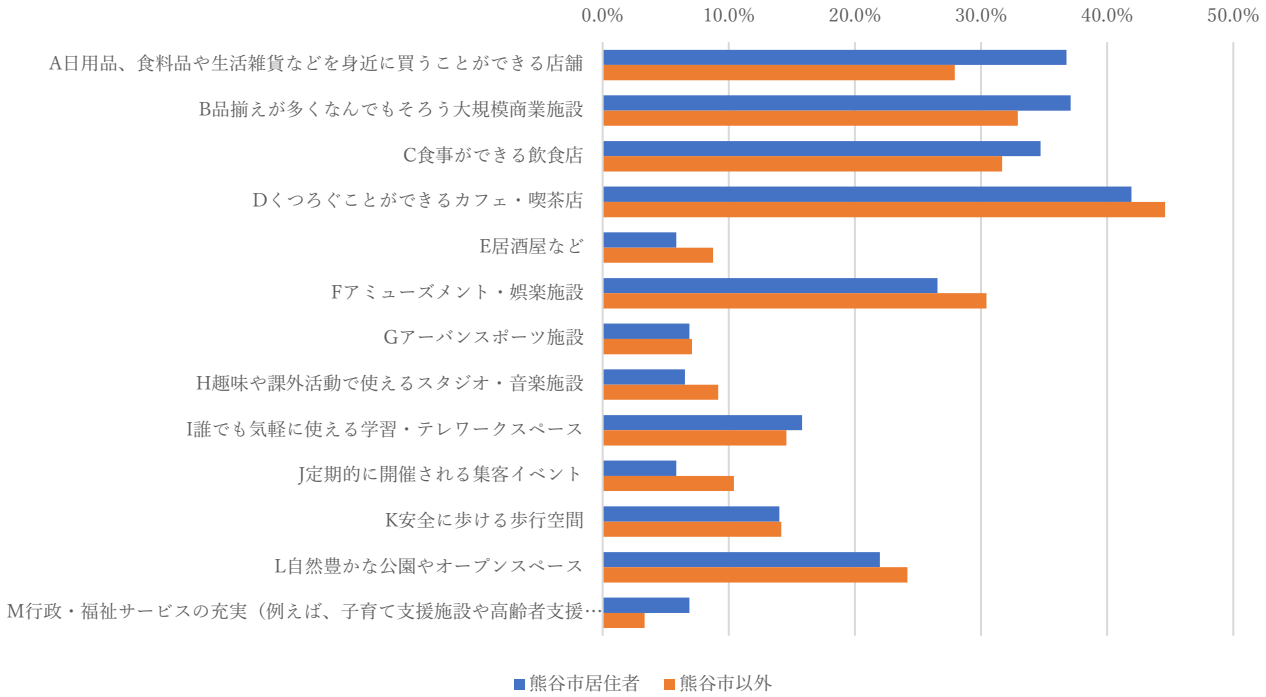


さらに「大学生・大学院生・専門学校生」と「高校生・中学生」が高い割合を示した項目として、「F アミューズメント・娯楽施設」があげられる。その結果は次のグラフで示す。「大学生・大学院生・専門学校生」が 77 人（39.9%）、ならびに「高校生・中学生」が 35.5%（38 人）であるのに対し、「会社員・パート・アルバイト」は 20 人（10.1%）であった。また「その他（主に無職）」は 1 人（12.5%）であった。同じような特徴を有する選択肢として、「G アーバンスポーツ施設」や「H 趣味や課外活動で使

えるスタジオ・音楽施設」でもみられる。つまり、交通手段が限定される学生において、駅前でさまざまな活動（特に娯楽）を体験できることを望んでいると考えられる。



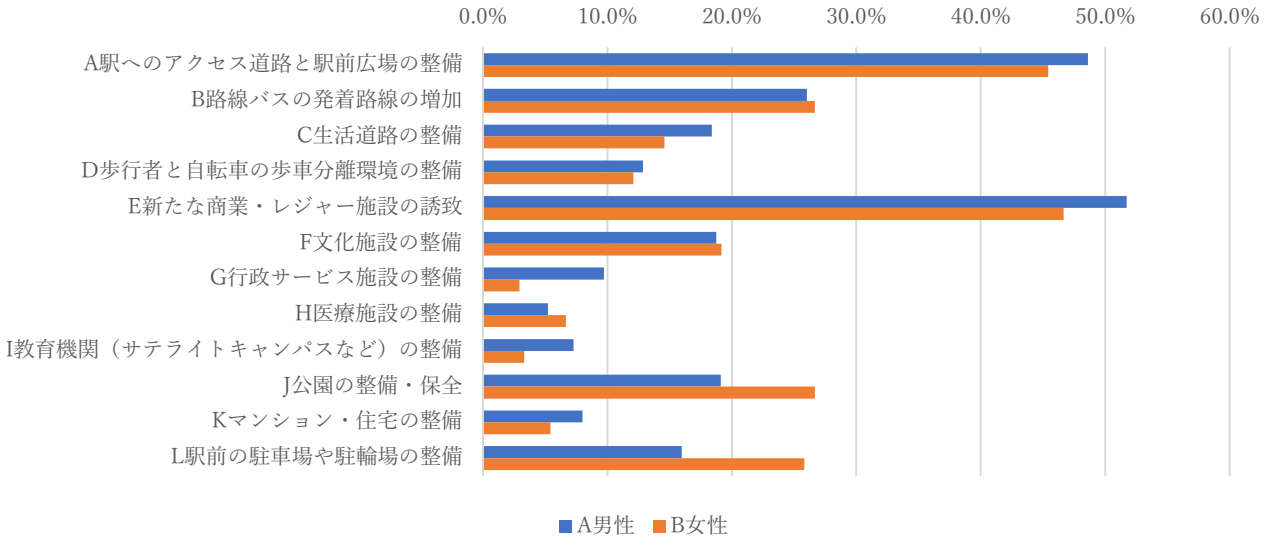
最後に居住地別についてみていく。熊谷市居住者と熊谷市以外について分類し、まとめたのが以下の図である。図からもわかるように、いずれの項目も 10%を超えるような差異はみられなかった。ただし、日常生活に必要な施設に関しては熊谷市居住者が高い傾向にあり、娯楽やカフェなどの施設については熊谷市以外の居住者が高い傾向になった。



6．属性別の熊谷駅南口活性化に必要な方策（3 つまで）

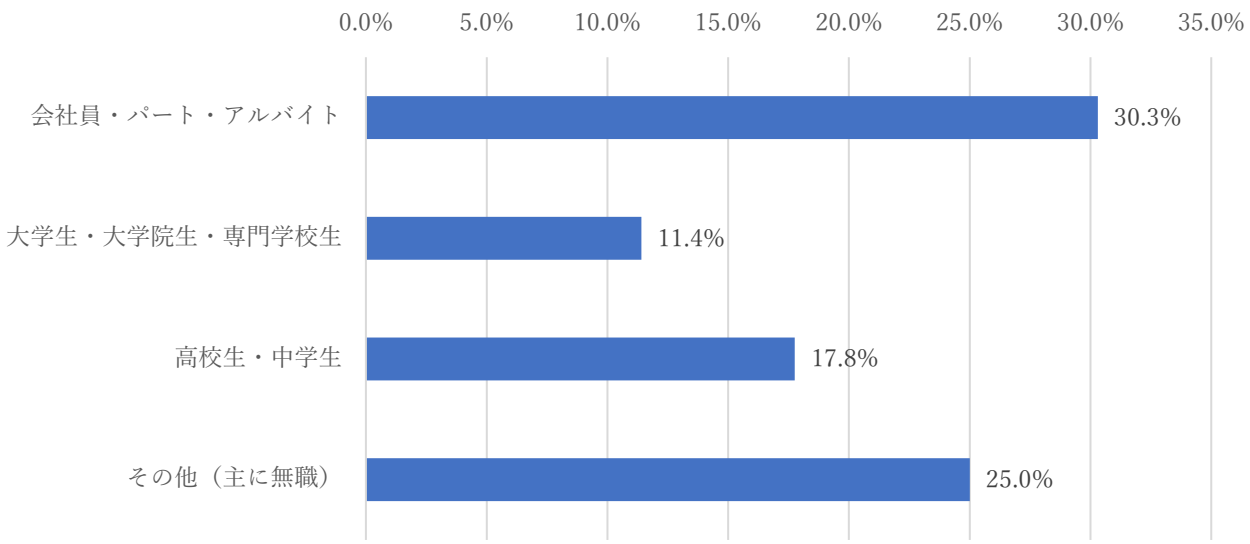
「熊谷駅南口周辺の活性化を推進するために、あなたが必要と感じる方策は何ですか」と尋ねたところ、「E 新たな商業・レジャー施設の誘致」と「A 駅へのアクセス道路と駅前広場の整備」の割合が高かった。以下では、前問と同様、性別、職業別、ならびに居住地別の差異について比較する。

性別については、以下のようにまとめることができる。グラフからわかるように「L 駅前の駐車場や駐輪場の整備」（男性 16.0%、女性 25.8%）が 10%近い差異がみられた。次いで「J 公園の整備・保全」（男性 19.1%、女性 26.7%）となっている。いずれも女性のほうが必要な方策として認識している。その他の項目については大きな違いはみられなかった。特に男性のほうが高い項目として、「E 新たな商業・レジャー施設の誘致」と「A 駅へのアクセス道路と駅前広場の整備」があげられるが、数ポイントの違いに留まっている。



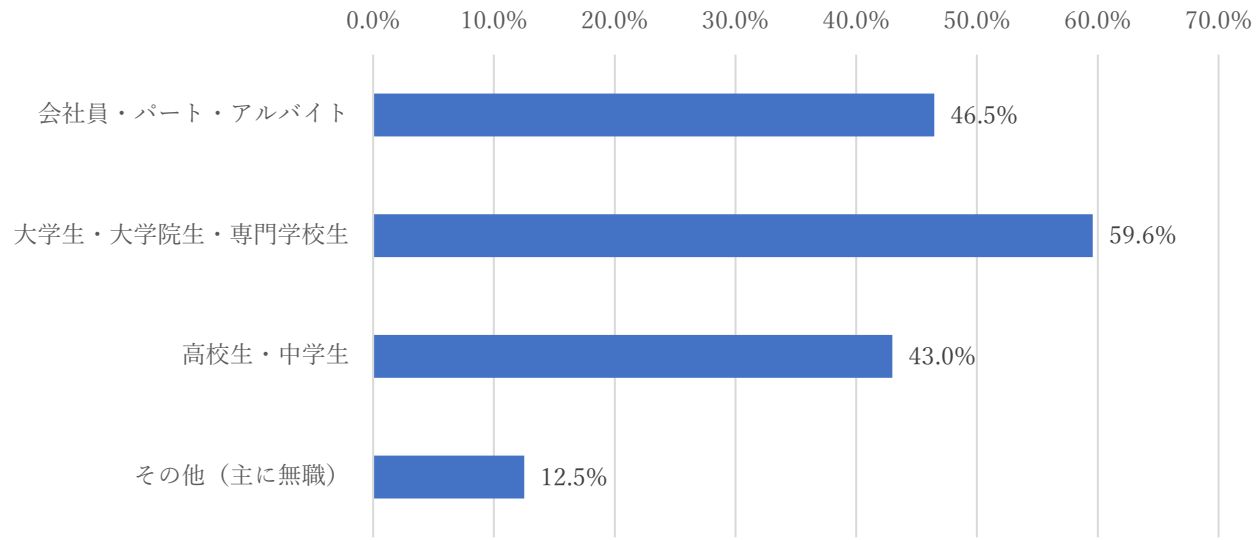
次に職業別についてみていく。前問と同様、4 つの階層（会社員・パート・アルバイト、大学生・大学院生・専門学校生、高校生・中学生、その他（主に無職）に分類する。まず、「会社員・パート・アルバイト」のみが高い選択肢として、「L 駅前の駐車場や駐輪場の整備」があげられる。その結果は、次のグラフでまとめることができる。「会社員・パート・アルバイト」が 60 人（30.3%）であるのに対し、「大学生・大学院生・専門学校生」が 22 人（11.4%）、ならびに「高校生・中学生」が 19 人（17.8%）である。「その他（主に無職）」は 2 人（25.0%）であった。

他にも、「会社員・パート・アルバイト」のみが高い選択肢として、「C 生活道路の整備」や「D 歩行者と自転車の歩車分離環境の整備」があげられる。このように道路や駐車場の整備が駅前の活性化に重要であると考えている会社員が目立つ結果になった。



次に「大学生・大学院生・専門学校生」のみが高い選択肢として、「E 新たな商業・レジャー施設の誘致」があげられる。「大学生・大学院生・専門学校生」が 115 人（59.6%）と約 6 割の回答者が選択している。一方で、「会社員・パート・アルバイト」が 92 人（46.5%）、ならびに「高校生・中学生」が 46 人（43.0%）となっている。「その他（主に無職）」は 1 人（12.5%）であった。商業施設に対するニーズは全体的に高いものの、特に大学生が顕著であることがわかった。

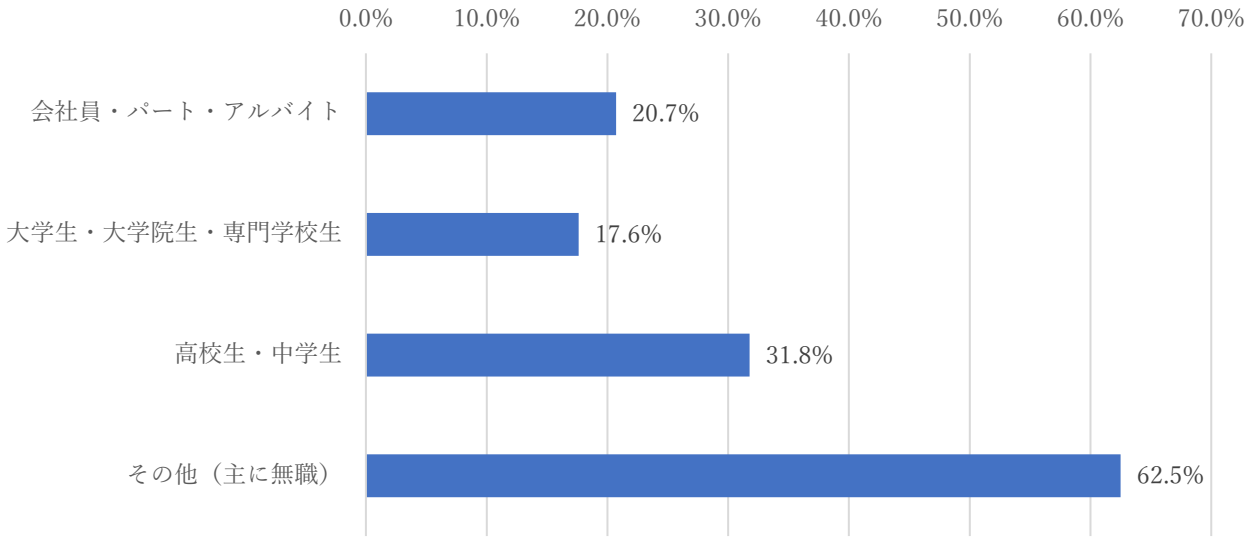
この他に、「大学生・大学院生・専門学校生」のみが高い選択肢として、「F 文化施設の整備」や「G 行政サービス施設の整備」があげられる。この理由は不明である。



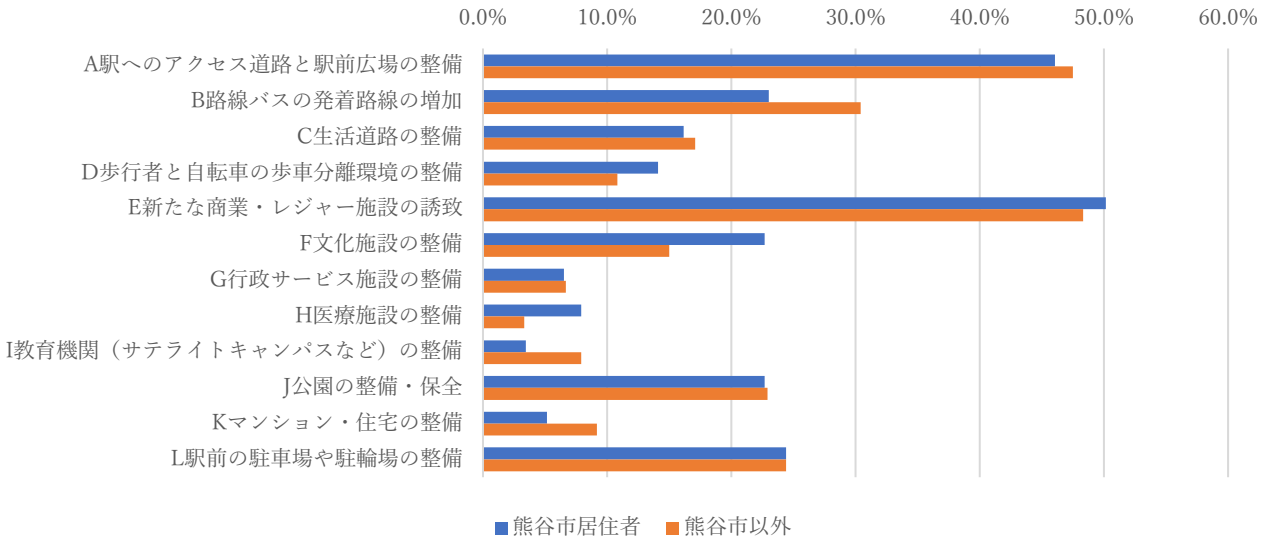
「高校生・中学生」のみが高い選択肢として、「J 公園の整備・保全」があげられる。その結果は次のグラフにまとめることができる。「高校生・中学生」が 34 人（31.8%）であるのに対し、「会社員・パート・アルバイト」が 41 人（20.7%）、ならびに「大学生・大学院生・専門学校生」が 34 人（17.6%）、「その

他（主に無職）」が 5 人（62.5%）という結果になった。「高校生・中学生」のみが高かった理由は不明である。

この他に、「高校生・中学生」のみが高い選択肢は存在しなかった。逆に「高校生・中学生」のみが低い選択肢は複数存在した。具体的には、「H 医療施設の整備」と「K マンション・住宅の整備」である。これらについては、高校生・中学生にとって縁遠いことが理由である。



最後に居住地別の比較を行う。熊谷市内居住者と熊谷市以外に分けてまとめたグラフが以下のとおりである。グラフからわかるように、多くの項目で大きな差がみられなかった。5%以上の差が存在していた項目として、「B 路線バスの発着路線の増加」（熊谷市内居住者 23.0%、熊谷市外 30.4%）と「F 文化施設の整備」（熊谷市居住者 22.7%、熊谷市外 15.0%）があげられる。熊谷市民の多くが文化施設の整備を望み、市外居住者が路線バスの発着路線の増加を希望する傾向にあった。

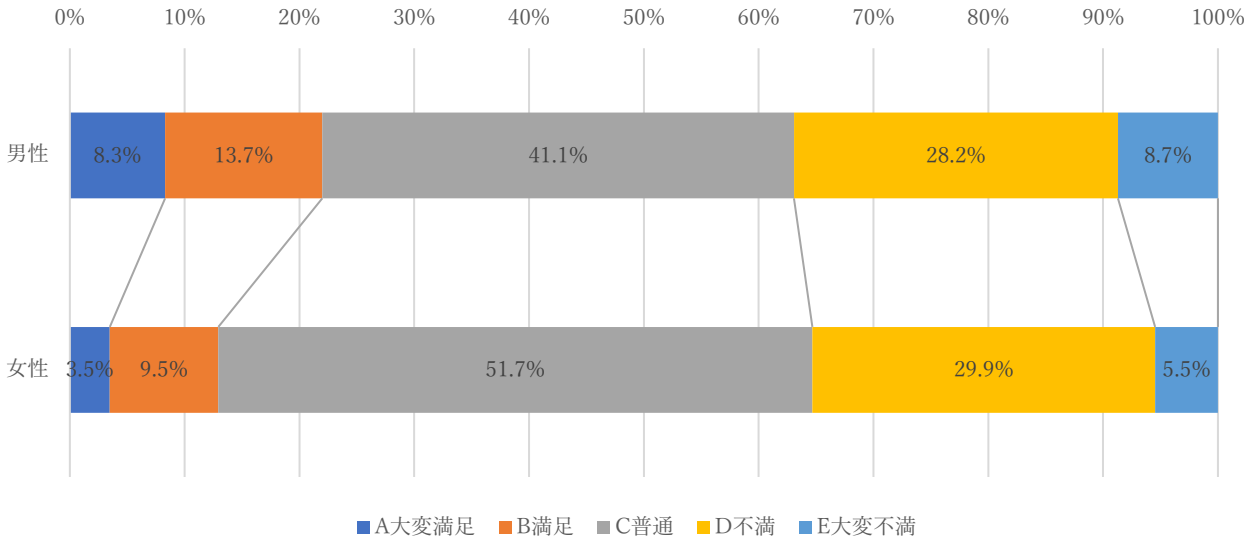


7．熊谷駅南口広場ロータリー、ならびに周辺環境についての満足度

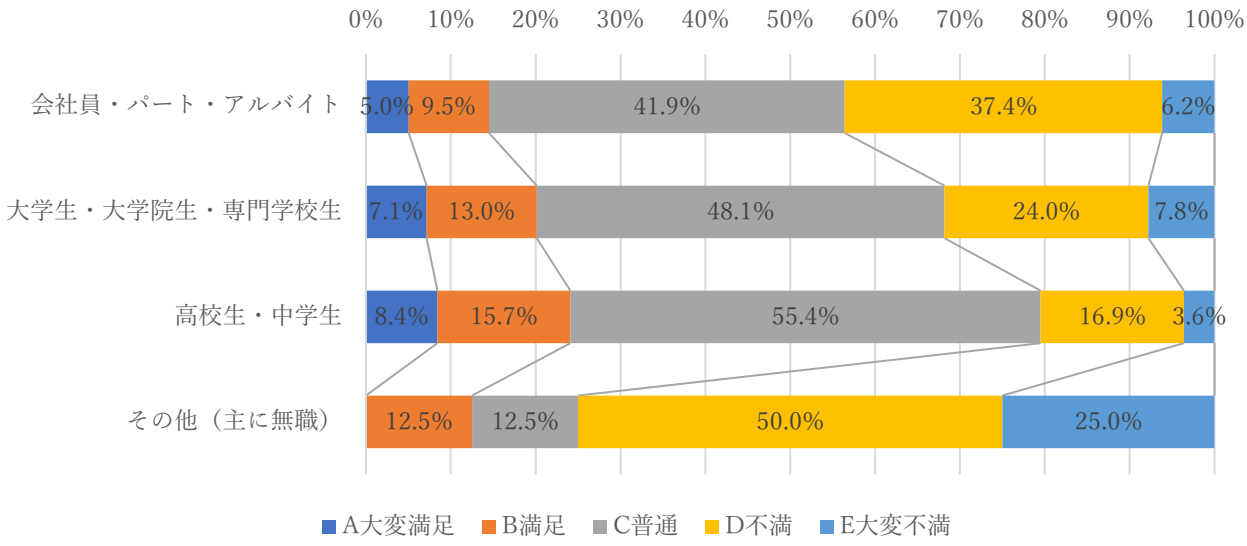
熊谷駅南口広場ロータリー、ならびに周辺環境についての満足度についての単純集計結果から、②自動車の通行しやすさ、③自動車の送迎利用のしやすさ、④ロータリー内の市営駐車場の利用のしやすさ、⑦トイレの利用のしやすさについて全体の回答者が不満を有していることがわかった。そこで、この 4 項目について、性別、職業別、ならびに居住地別の差異について比較する。ただし単純集計結果と同様、「わからない」の回答数を除く。

②自動車の通行しやすさ

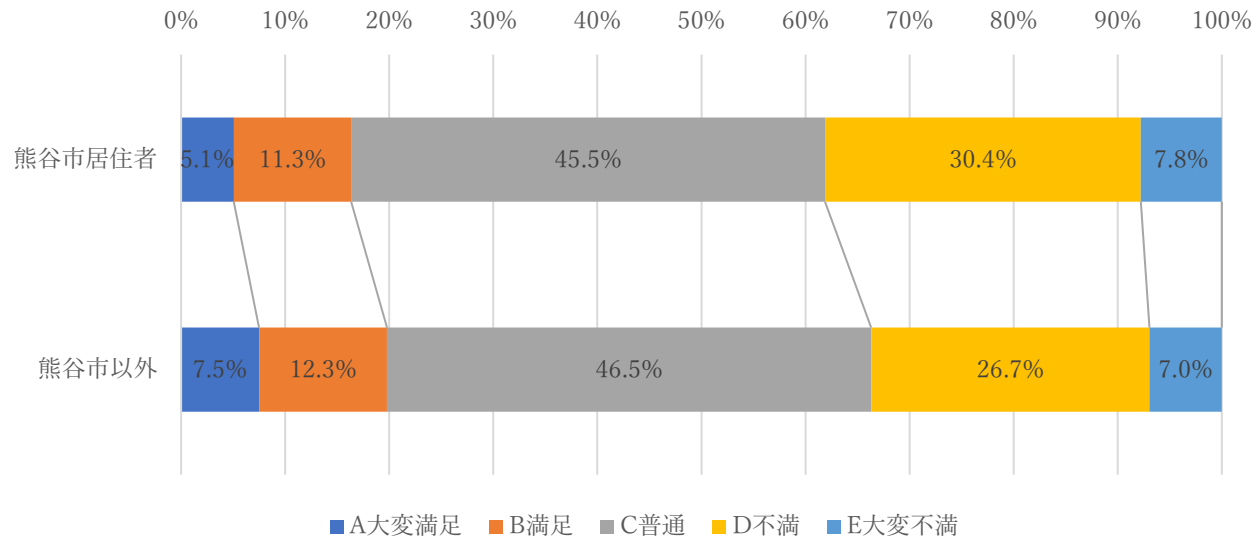
南口広場ロータリーの自動車の通行のしやすさを性別によって比較したところ、以下のグラフのような結果となった。男性の場合、「D 不満」と「E 大変不満」の合計が 36.9%であるのに対し、女性の場合、35.4%となった。大きな差はみられなかった。



職業別にみた場合の結果は、以下のグラフにまとめることができる。やはり自動車の通行のしやすさについては、「会社員・パート・アルバイト」の満足度の低さが目立っている。「D 不満」と「E 大変不満」の合計が、「会社員・パート・アルバイト」が 78 人（43.6%）、「大学生・大学院生・専門学校生」が 49 人（31.8%）、「高校生・中学生」が 17 人（20.5%）、「その他（主に無職）」が 6 人（75.0%）となっている。おそらく自動車を利用しない回答者を除いた場合には、この不満度がさらに高まることが考えられる。

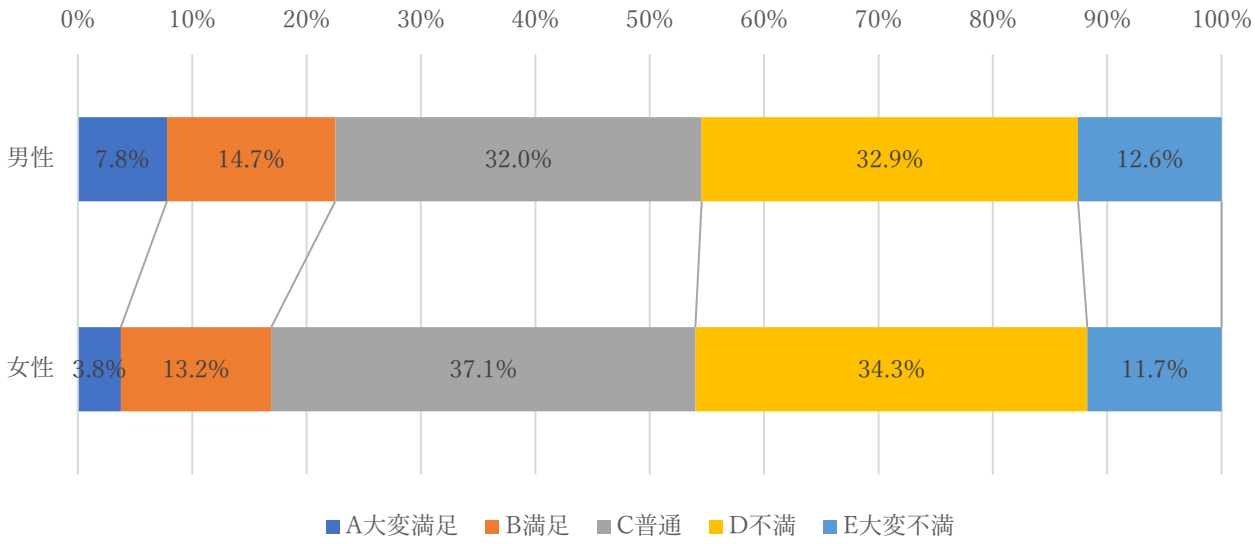


熊谷市居住者とそれ以外に分けた場合、熊谷市居住者のほうが市外の回答者よりも自動車の通行しやすさについて不満を有していることがグラフから理解できる。「D 不満」と「E 大変不満」の合計が、熊谷市居住者 38.2%、熊谷市以外 33.7%となっている。当然のことながら、満足度も熊谷市居住者のほうが低い傾向にある。

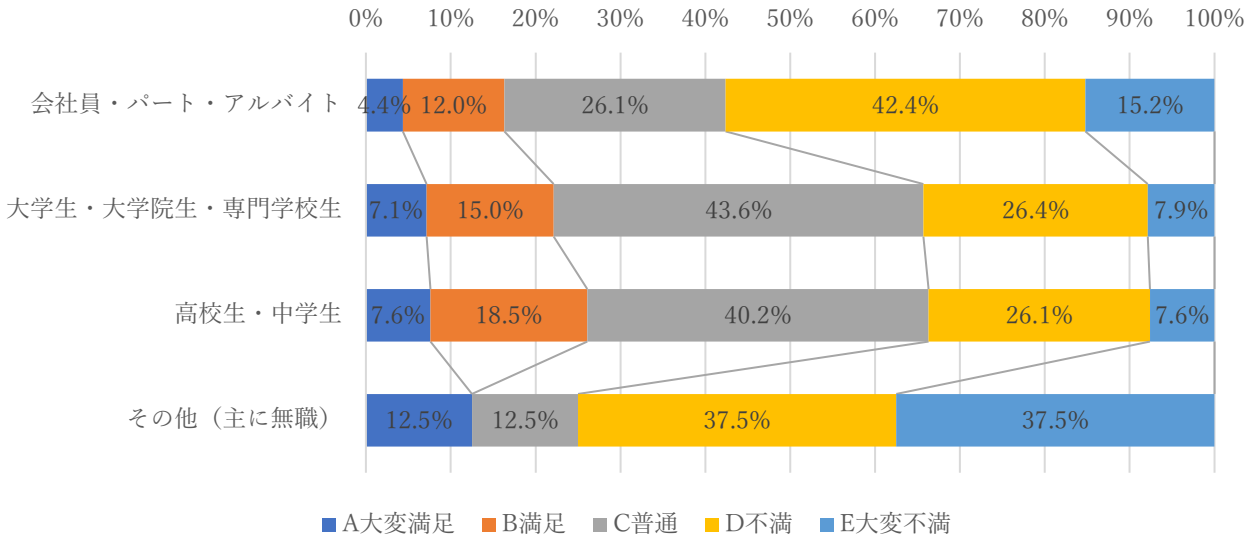


③自動車の送迎利用のしやすさ

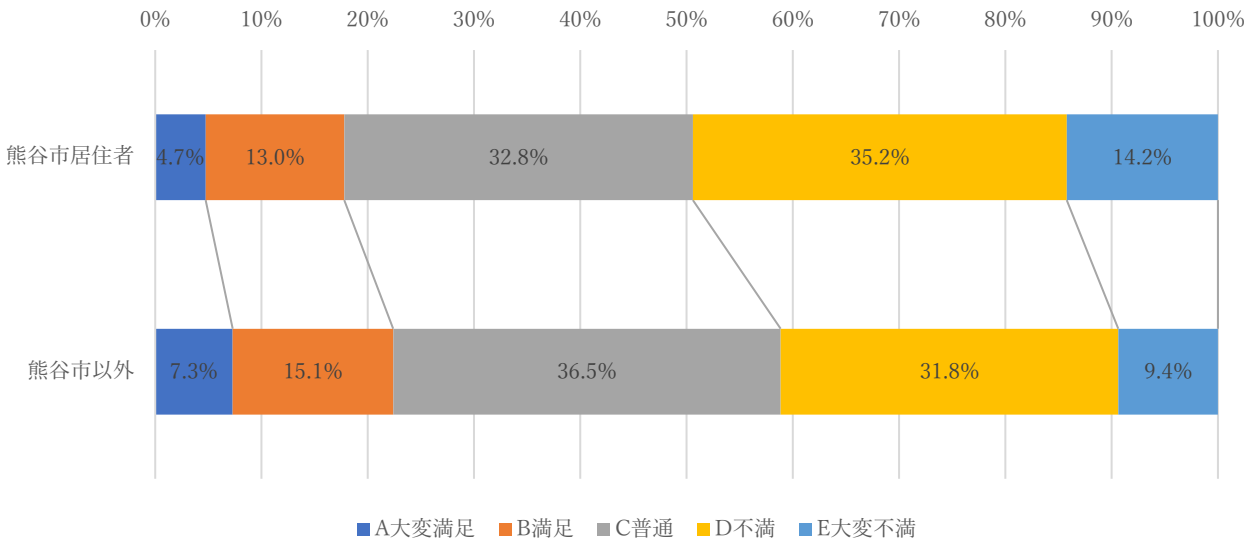
南口広場ロータリーの自動車の送迎利用のしやすさを性別によって比較したところ、以下のような結果となった。男性の場合、「D 不満」と「E 大変不満」の合計が 45.5%であるのに対し、女性の場合、46.0%となった。ほぼ同じ水準であった。一方で「A 大変満足」と「B 満足」の合計について、男性が 22.5%、女性が 17.0%と計算され、男性のほうが少し満足度が高い傾向にあった。



同様に自動車の送迎利用のしやすさについても、職業別に分析したところ、以下の図のようにまとめることができる。②自動車の通行のしやすさよりも「会社員・パート・アルバイト」の満足度が低いことが明らかになった。「D 不満」と「E 大変不満」の合計が、「会社員・パート・アルバイト」が 106 人(57.6%)、「大学生・大学院生・専門学校生」が 48 人（34.3%)、「高校生・中学生」が 31 人（33.7%)、「その他（主に無職)」が 6 人（75.0%）となっている。現在の南口ロータリーは混雑を緩和することを目的に一方通行などを導入しているが、自動車利用者の多くが現状に対して満足していないことが明らかになった。

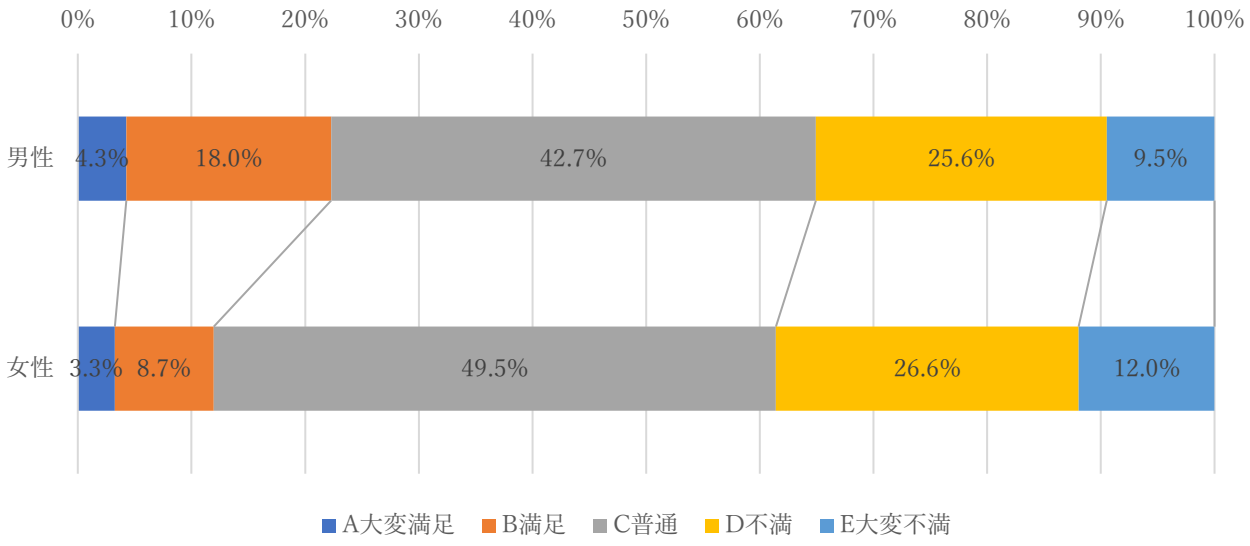


居住地別でみた場合、熊谷市民のほうが自動車の送迎利用のしやすさについても不満を有している。「D 不満」と「E 大変不満」の合計が、熊谷市居住者 49.4%、熊谷市以外 41.2%となっている。②自動車の通行しやすさにおいて、熊谷市民の合計は 38.2%であったことから、自動車の送迎利用のしやすさのほうが不満を有している。その理由については不明である。



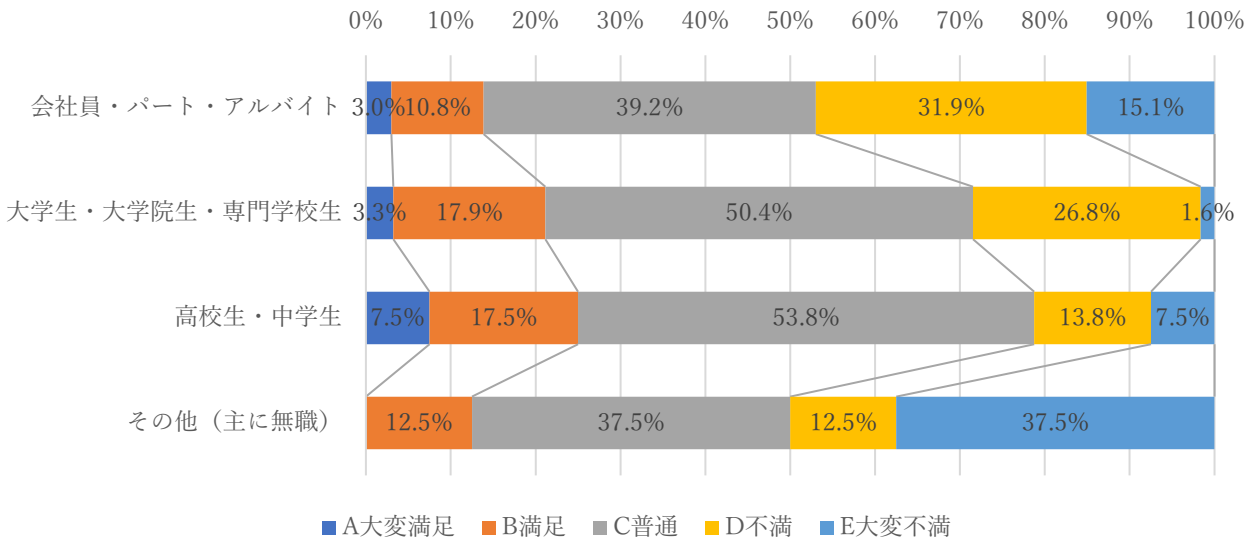
④ロータリー内の市営駐車場の利用のしやすさ

ロータリー内の市営駐車場の利用のしやすさを性別によって比較したところ、以下のような結果となった。女性のほうが満足度が低い傾向にある。「A 大変満足」と「B 満足」の合計は、男性 22.3%、女性 12.0%となっている。不満に関してはほぼ同じであるが、他地域ではあまり例のない駐車方法であるので、運転が得意ではないドライバーにとっては戸惑うことが考えられる。

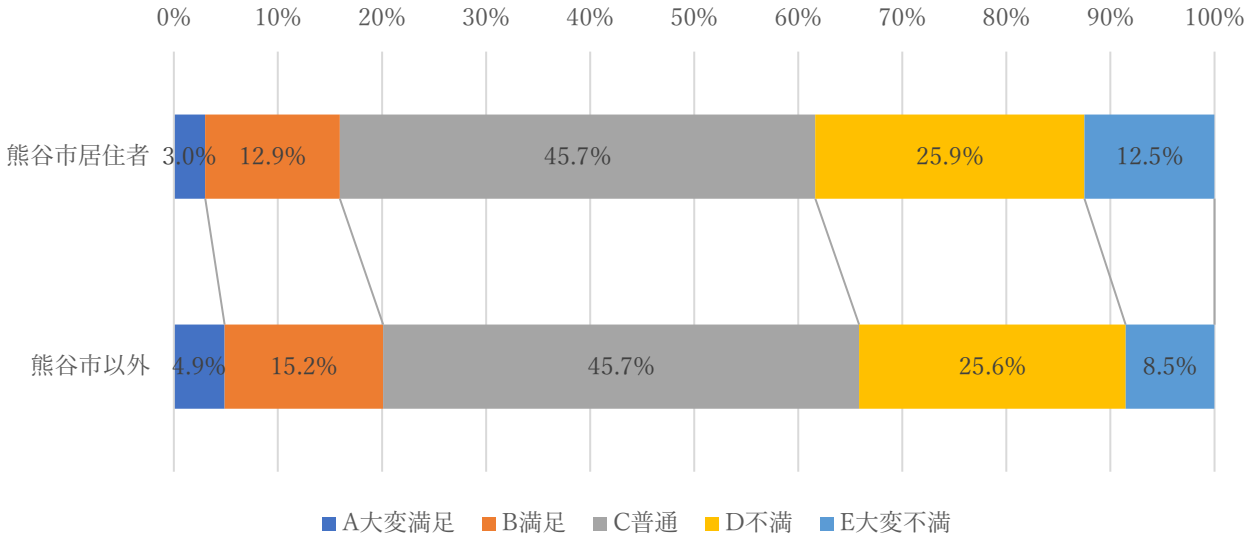


市内駐車場の利用のしやすさについても、職業別に分析を行う。その結果、次のグラフのようにまとめることができる。会社員・パート・アルバイトについては、③自動車の送迎利用のしやすさよりは不満度は低いものの、②自動車の利用しやすさよりは高い不満度を示した。「D 不満」と「E 大変不満」の合計が、「会社員・パート・アルバイト」が 78 人(47.0%)、「大学生・大学院生・専門学校生」が 35 人(28.5%)、

「高校生・中学生」が 17 人（21.3%）、「その他（主に無職）」が 4 人（50.0%）となっている。おそらく④市内駐車場の利用しやすさは、②自動車の利用しやすさと相関しているものと考えられる。

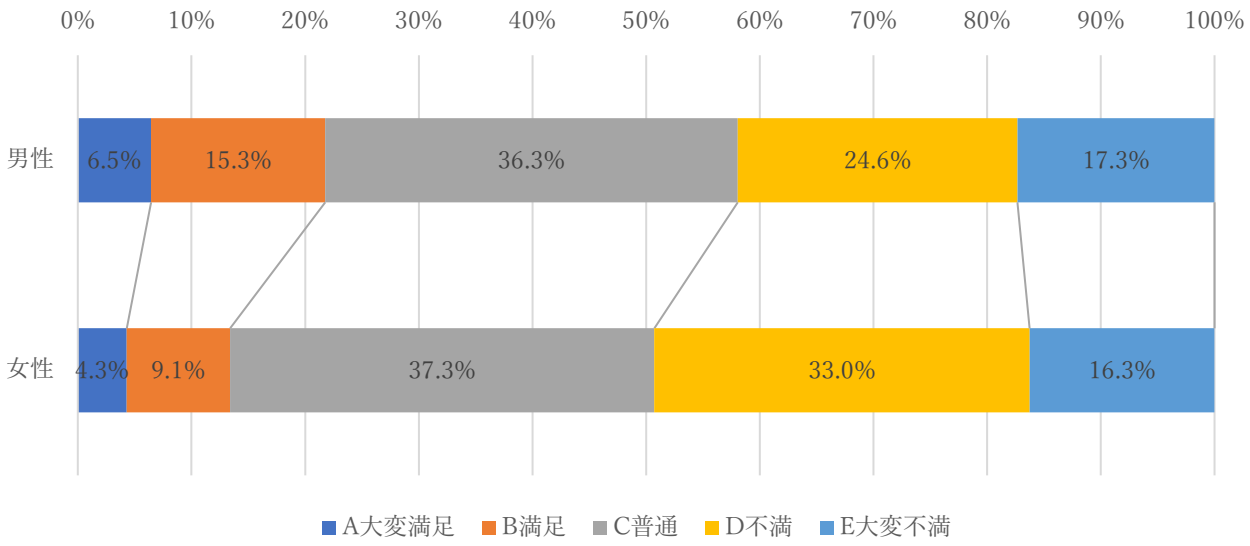


居住地別でみた場合、熊谷市民のほうが若干不満を有している傾向にある。「D 不満」と「E 大変不満」の合計が、熊谷市居住者 38.4%、熊谷市以外 34.1%となっている。それに伴って、満足をしている階層も熊谷市居住者のほうが少ない。一方で「C 普通」の割合は全く同じであった（45.7%）。

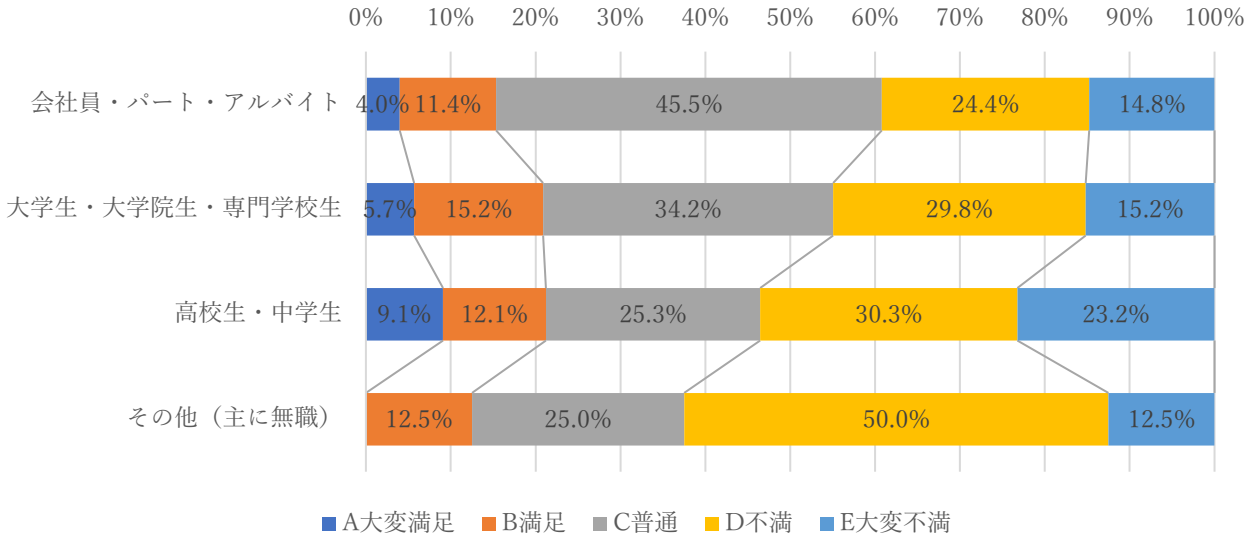


⑦トイレの利用のしやすさ

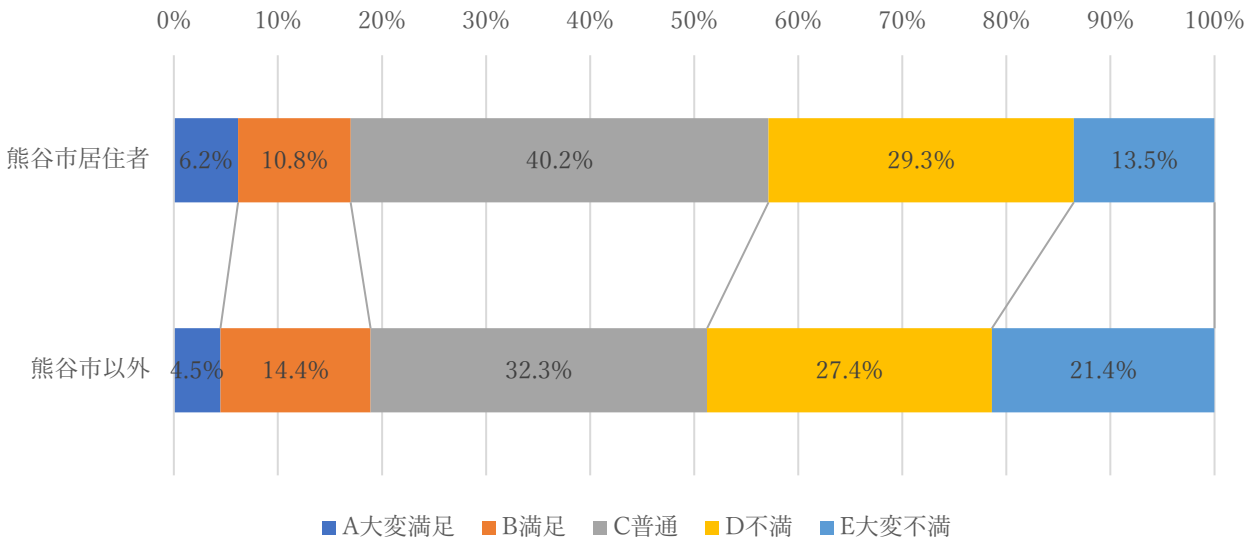
最後にトイレ利用のしやすさについてみていく。まずは性別でみた場合、次のグラフのように女性のほうが不満が高いことがわかる。「D 不満」と「E 大変不満」の合計が、男性 41.9%、女性 49.3%となっている。女性で約半数、男性でも 4 割を超える回答者が不満を有していた。その理由については不明である。



職業別にみた場合、以下のグラフのように高校生ほど不満を有していることがわかる。「D 不満」と「E 大変不満」の合計が、「高校生・中学生」が 53 人（53.5%）であるのに対し、「会社員・パート・アルバイト」が 69 人（39.2%）、「大学生・大学院生・専門学校生」が 71 人（44.9%）、「その他（主に無職）」が 5 人（62.5%）となっている。「高校生・中学生」の半数が不満を有している。今後、トイレの設置や管理に関しては、若年層の意見を取り入れることがもとめられる。



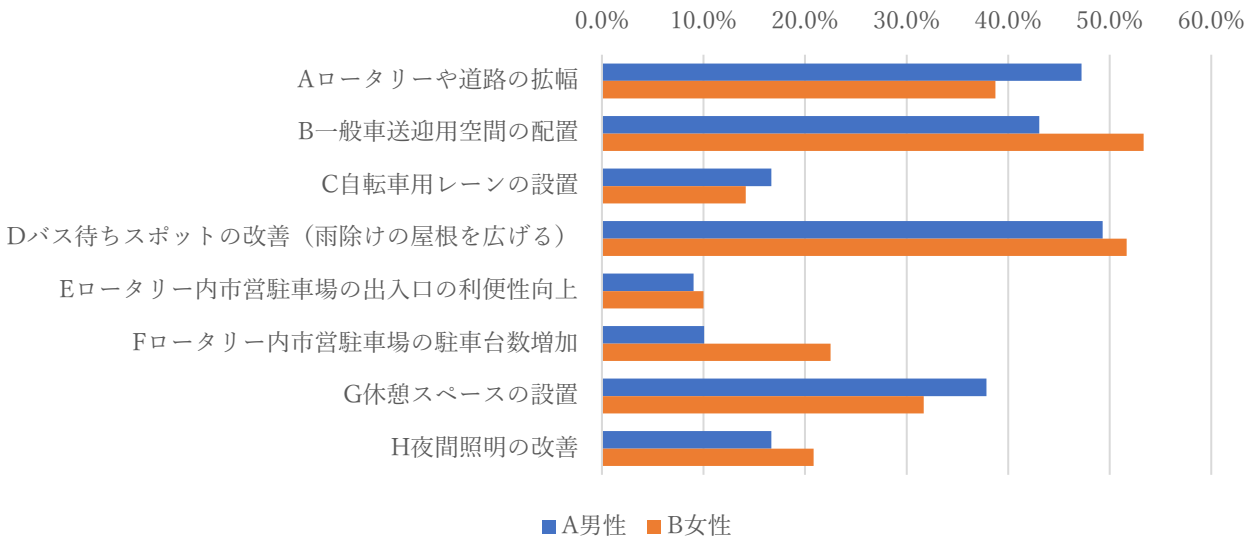
最後に地域別に分析する。次のグラフから、熊谷市以外のほうが若干不満を有している傾向にある。「D 不満」と「E 大変不満」の合計が、熊谷市居住者 42.8%、熊谷市以外 48.8%となっている。一方で満足している階層は熊谷市外のほうが少し高かった（熊谷市居住者 17.0%、熊谷市以外 18.9%）。この理由も不明である。



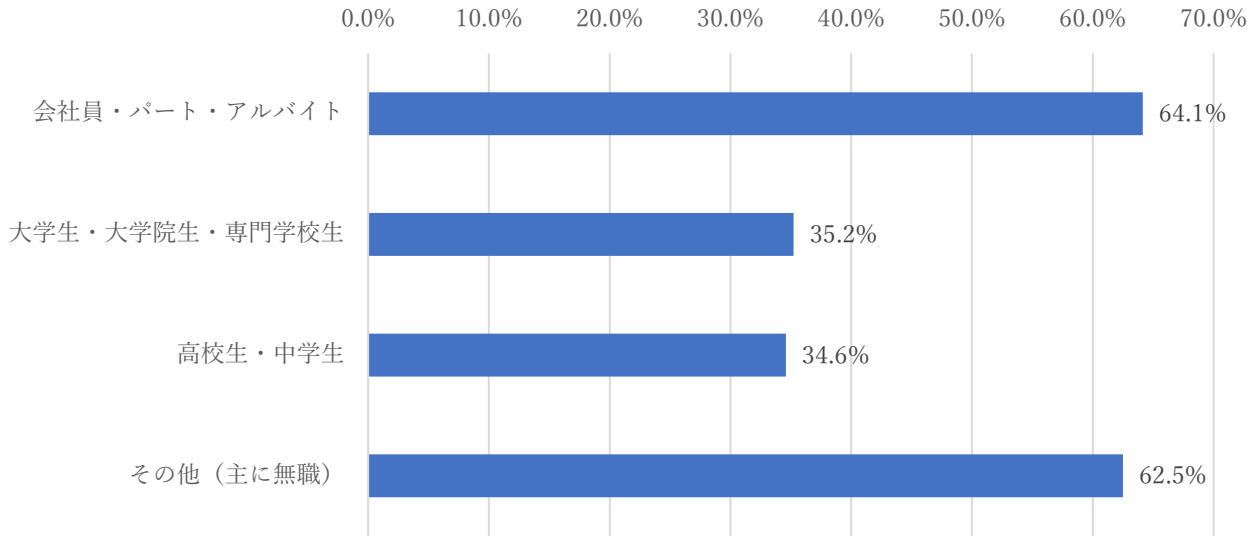
8．熊谷駅南口広場ロータリーを利用しやすくするための方策（3 つまで）

「熊谷駅南口広場ロータリーを利用しやすくするために、どのような対策が必要か」について 3 つまで選択肢を選ぶ設問では、「D バス待ちスポットの改善（雨除けの屋根を広げる）」、「B 一般車送迎用空間の配置」、「A ロータリーや道路の拡幅」、ならびに「G 休憩スペースの設置」が全体の上位項目であった。上記と同様に、性別、職業別、ならびに居住地に分析を行う。

まず性別について説明する。ロータリーを利用しやすくするための方策を性別によってまとめたのが以下のグラフである。男性のほうが顕著に高かった選択肢として、「A ロータリーや道路の拡幅」（男性 47.2%、女性 38.8%）と「G 休憩スペースの設置」（男性 37.9%、女性 31.7%）が存在する。一方で、女性のほうは「F ロータリー内市営駐車場の駐車台数増加」（女性 22.5%、男性 10.1%）と「B 一般車送迎用空間の配置」（女性 53.3%、男性 43.1%）があげられる。また「H 夜間照明の改善」についても女性のほうが高かった。このように性別によってもとめる方策に差があることがわかった。

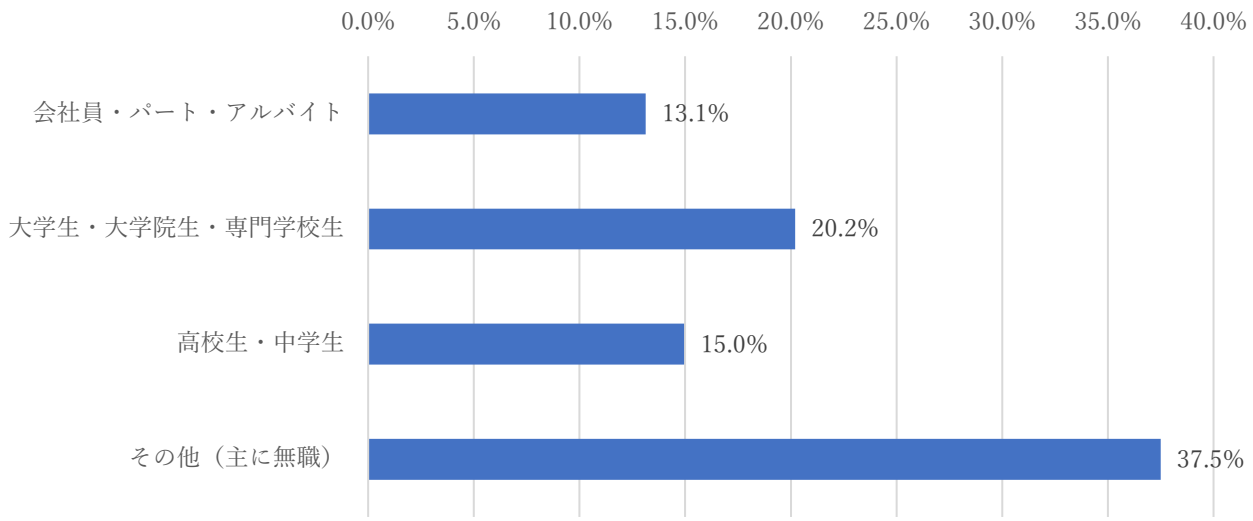


職業別でみた場合については、一部の選択肢のみ解説を行う。まず「会社員・パート・アルバイト」のみが高かったのが、「B 一般車送迎用空間の配置」である。「会社員・パート・アルバイト」が 127 人(64.1%)であるのに対し、「大学生・大学院生・専門学校生」が 68 人(35.2%)、「高校生・中学生」が 37 人(34.6%)であった。グラフからもわかるように、3 割近い差異が存在している。なお「その他(主に無職)」は 5 人(62.5%)となっている。

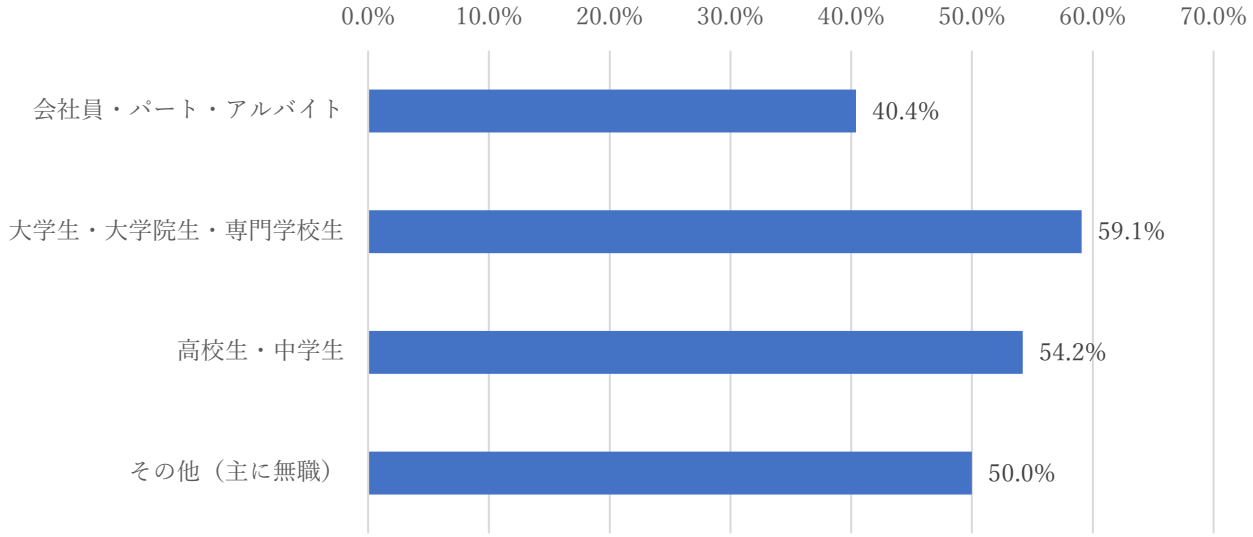


同様に、「会社員・パート・アルバイト」が高い数値を示した選択肢として、「E ロータリー内市営駐車場の出入口の利便性向上」と「F ロータリー内市営駐車場の駐車台数増加」があげられる。「E ロータリー内市営駐車場の出入口の利便性向上」の場合、「会社員・パート・アルバイト」が 24 人(12.1%)、「大学生・大学院生・専門学校生」が 14 人(7.3%)、「高校生・中学生」が 7 人(6.5%)となっている。「F ロータリー内市営駐車場の駐車台数増加」の場合、「会社員・パート・アルバイト」が 52 人(26.3%)、「大学生・大学院生・専門学校生」が 11 人(5.7%)、「高校生・中学生」が 10 人(9.4%)となっている。この結果から、ロータリー広場の中心的な利用者である会社員などが改善を要望していることがわかる。

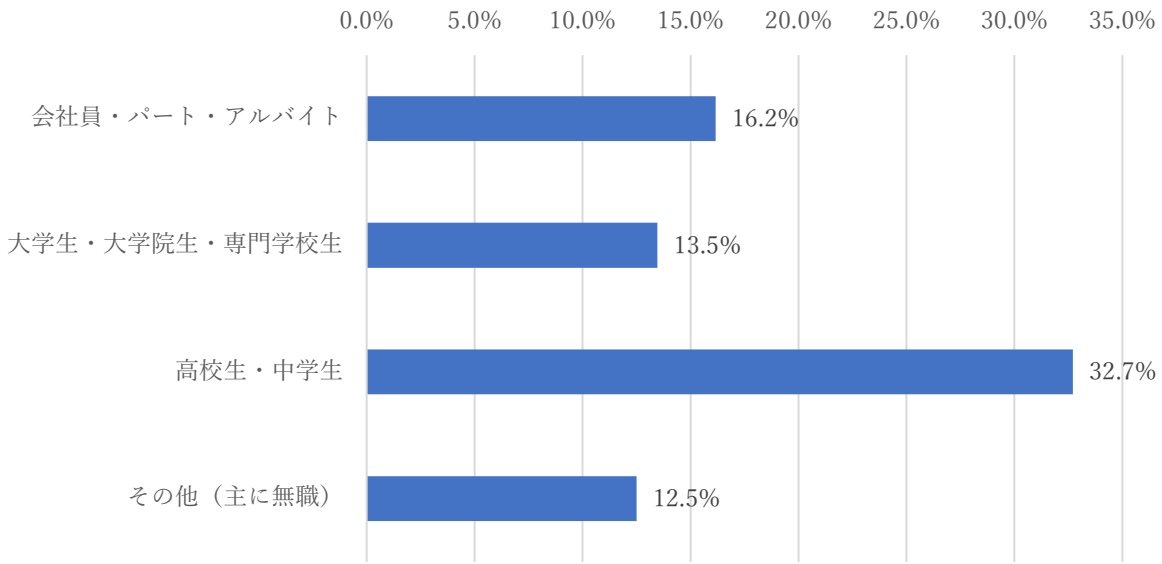
次に「大学生・大学院生・専門学校生」のみが高い選択肢として、「C 自転車用レーンの設置」があげられる。以下のグラフのように、「大学生・大学院生・専門学校生」が 39 人(20.2%)であるのに対し、「会社員・パート・アルバイト」が 26 人(13.1%)、ならびに「高校生・中学生」が 16 人(15.0%)となっている。「その他(主に無職)」は 5 人(37.5%)であった。大学生などが自転車用レーンへの要望を有していることの理由は不明である。



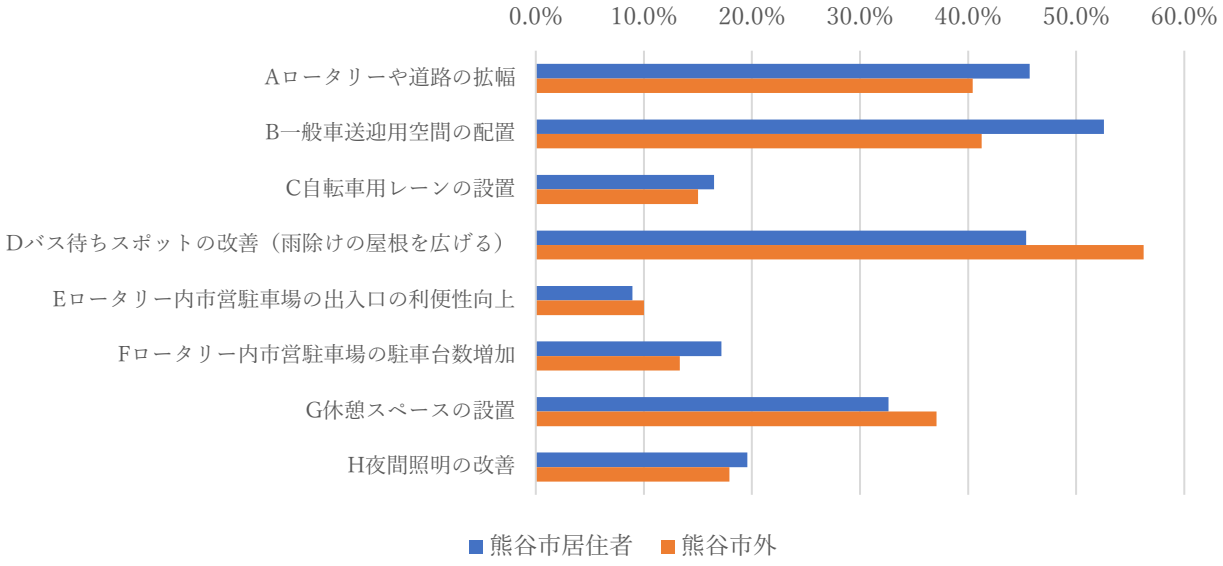
「大学生・大学院生・専門学校生」と「高校生・中学生」が高い数値を示した選択肢として、「D バス待ちスポットの改善（雨除けの屋根を広げる）」があげられる。「大学生・大学院生・専門学校生」が 114 人（59.1%）、ならびに「高校生・中学生」が 58 人（54.2%）であるのに対し、「会社員・パート・アルバイト」が 80 人（40.4%）であった。また「その他（主に無職）」は 4 人（50.0%）となっている。この他にも「G 休憩スペースの設置」が同様に「大学生・大学院生・専門学校生」と「高校生・中学生」が高かった（会社員・パート・アルバイト 21.7%、大学生・大学院生・専門学校生 44.0%、高校生・中学生 49.5%）。休憩スペースといっても、さまざまな種類が存在するので、具体的な内容については不明である。



最後に「高校生・中学生」のみが高い選択肢として、「H 夜間照明の改善」があげられる。「高校生・中学生」が 35 人（32.3%）であるのに対し、「社員・パート・アルバイト」が 32 人（16.2%）、ならびに「高校生・中学生」が 26 人（13.5%）であった。また「その他（主に無職）」は 1 人（12.5%）となっている。やはり若年層を中心に夜間における治安の悪さを気にしていることがわかった。



熊谷市居住者と熊谷市外に分けた場合、以下のグラフのように整理することができる。8 項目のうち、熊谷市居住者が利用しやすい方策で，かつ重要と考えているものとして、「A ロータリーや道路の拡幅」と「B 一般車送迎用空間の配置」があげられる。特に「B 一般車送迎用空間の配置」については、熊谷市居住者が 153 人（52.6%）であるのに対し、熊谷市外が 99 人（41.3%）と 2 割を超える差異がみられる。一方で熊谷市外が重視しているのが、「D バス待ちスポットの改善（雨除けの屋根を広げる）」と「G 休憩スペースの設置」である。「D バス待ちスポットの改善（雨除けの屋根を広げる）」については、熊谷市外が 135 人（56.3%）であるのに対し、熊谷市内居住者が 132 人（45.4%）となっている。このことから熊谷市内居住者は道路の整備を、また熊谷市外は利用環境の整備をそれぞれもとめていることが理解できた。



V. テキストマイニング分析の結果

テキストマイニングとは、大量のテキストデータから有用な情報を取り出すための手法やプロセスを意味する。これは自然言語処理や機械学習の技術を活用して、テキストデータから意味やパターンを抽出し、分析することを目的とする。今回、設問 13 の自由回答だけではなく、それ以外の設問（設問 8・9・10・12）においても、その他の回答欄に多数の意見などが存在した。そのような内容を合わせて、テキストマイニング分析を実施し、回答者が熊谷駅南口に対してどのようなイメージや意見を有しているのかを把握する。ちなみに対象となるデータは 257 件であった。同一人物が複数回答している場合も含めている。また分析のためのアプリとして、KH Corder Ver. 3.Beta.02c を使用した。

まず記入された回答内容の出現回数を集計したものが下表である。表では出現回数の 20 以上の抽出語を対象としている。やはり、最も多かったのが「南口」の 64 回であった。今回のアンケートが熊谷駅南口を対象としていることから、当然の結果である。続いて「バス」があげられる。「バス」と言っても、バス停、バス乗り場、バスの発着、バス待ちなどさまざまな言葉が使用されている。南口といえば、バスのイメージが強いことがわかる。

抽出語	出現回数
南口	64
バス	50
多い	44
駐車	39
北口	38
施設	33
ロータリー	31
駅	28
利用	28
人	24
車	22
熊谷	21
少ない	21
整備	21
場所	20

（参考）KH Corder より作成

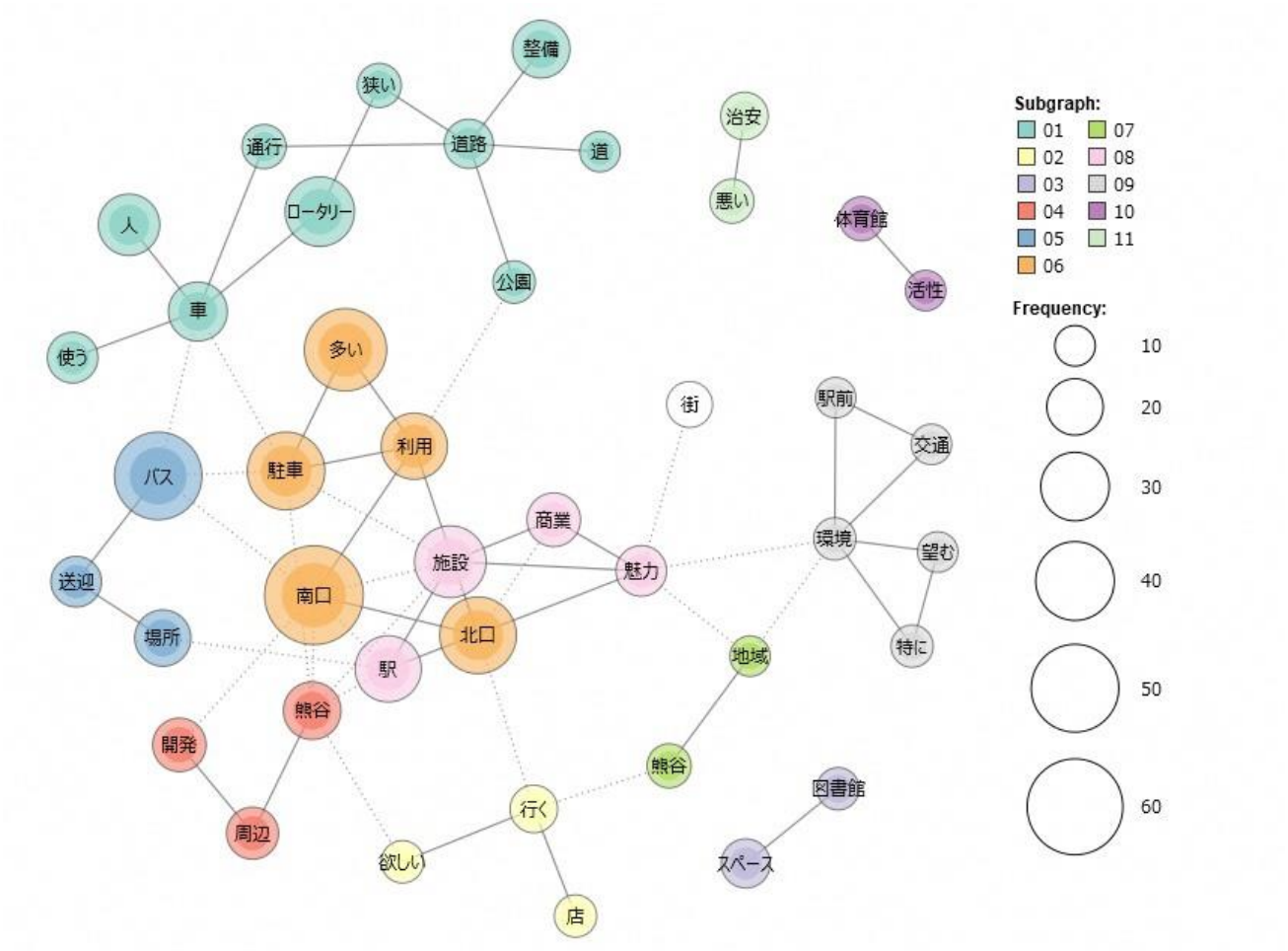
3 番目が「多い」である。「多い」という言葉については、その下位になる「少ない」と対義語になる。この場合、その文字列が含まれているテキストや前後の文脈などといった位置関係が重要となる。「多い」の詳細についてみると、駐車場が多い、空き地が多い、一方通行が多い、バスの送迎が多い、一時停車の車が多い、など比較的ネガティブなイメージで使用されていることが目立った。一方で「少ない」については、商業施設が少ない、休憩スペースが少ない、バス停における雨除けの屋根が少ないなど、こちらもネガティブなイメージで使用されることが多かった。

4 番目の「駐車」については、主として「駐車場」や「駐車中」という言葉で数多く使用されていた。その内容は多種多様である。駐車場が多すぎるというものもあれば、駐車場が少なすぎるというように

正反対の意見も存在していた。詳細をみると、駐車場が多い場合は、にぎわいの喪失、景観や治安の悪化を嘆く声が多かった。駐車場が少ない場合は、朝夕の混雑による送迎の困難など、ロータリーを中心とした利用のしづらさを指摘する意見がみられた。このように一時駐停車を含めた概念で、駐車場という言葉を使用している。そのため内容を注意深くみる必要がある。

5番目の「北口」は、南口との対比で使用している。北口と南口、それぞれの特徴を活かした活性化を検討すべきという意見もあれば、北口を中心に開発を行うべきではないという意見、また北口と南口を一体として再開発を行うべきというコメントもみられた。いずれにせよ、南口は北口と比較して劣っているというのは共通の理解のようである。

次に共起ネットワークを示したのが下図である。共起ネットワークとは、代表的な単語を各頂点とし、それらを接続することで、単語の関係性をネットワークで示すものである。共起ネットワークにより、単語の関連性を可視化できるので、出現頻度の高い表現の把握や文全体の趣旨の理解などが可能となる。それぞれの丸の大きさは出現回数を相対的に表現し、直線の近さは単語同士の近接性を示している。また色はテーマの違いを示している。



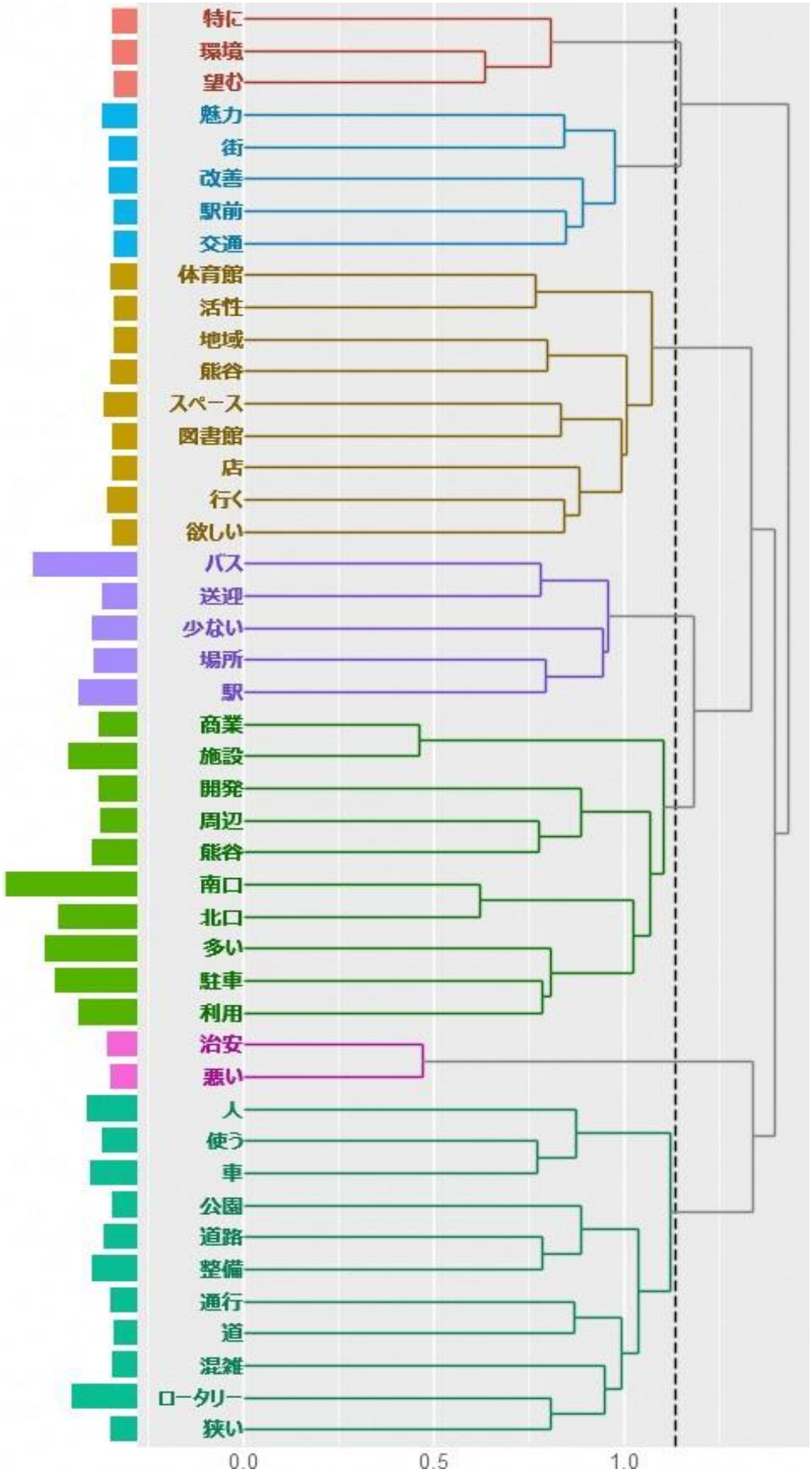
（参考）KH Coder より作成

上記で説明した抽出語の出現回数と基本的には同じ内容を示しているものの、共起ネットワークの場合はその関係性がより明白となる。例えば、南口という単語に対しては、「熊谷」、「駅」、「駐車」と近接している。これは熊谷駅南口や南口の駐車場（スペース）という言葉で頻繁に使用されているためである。また北口という単語に対しては、「施設」、「商業」、ならびに「魅力」とつながっている。このことから北口の商業施設を魅力的に感じていることを示している。

ロータリーを中心としたネットワークについてみた場合、「車」と「狭い」との関係性がみられる。「狭い」については「道路」とつながっていることから、狭い道路についての記述がクローズアップされる。共起ネットワークでみた場合、道路環境や駐車場の状況についての結果が目立っている。

最後に各単語のクラスター分析の結果についてまとめたのが次ページの図である。クラスター分析とは、個々のデータから似ているデータ同士をグルーピングする分析手法を意味する。上記の共起ネットワークよりも多数の単語の関係性を把握することができる。線の短さは、各単語の近接性を意味している。具体的にみると、「治安」と「悪い」、「商業」と「施設」、ならびに「南口」と「北口」などの近接性が確認できる。ただし「治安」と「悪い」のように日本語の表現による影響も受けているので、その点は考慮する必要がある。

いずれにせよ、自由回答などのコメントは、回答者の切実な意見を表すこともあるので、このようなテキストマイニングの結果は軽視すべきではない。今回の結果に関しては、アンケート調査の結果とほぼ同じ意見であったといえる。ただし、テキストマイニングの結果からは道路や駐車場などの意見が目立つことになったといえる。



（参考）KH Corder より作成

Ⅵ. まとめ

以上で、熊谷駅南口を継続的に使用している通学者や通勤者を対象に熊谷駅南口の利用頻度、交通手段や意識、ならびに南口広場ロータリーや周辺環境についての満足度や意見などの内容について、単純集計とクロス集計を通じて分析を行った。おおむね以下のような結果が明らかになったと思われる。

- 多くの回答者にとって、現在の熊谷駅南口は単なる通過点に過ぎないこと。
- 商業施設の整備を中心とした活性化を望む意見が多数存在すること。
- 同時に南口の静寂な雰囲気を残しつつ、活性化を望む意見もみられること。具体的には公園、図書館や休憩場などの公共施設の整備と一体で実施することをもとめていること。
- 南口のロータリーについては、特に自動車利用者（主として熊谷市民）の不満が高く、改善（混雑の緩和や駐車場の整備など）を望む意見が存在すること。
- ロータリー広場の自然環境、トイレや駐車場についても不満が多く、再整備が必要なこと。

上記のように南口に対してそれぞれの回答者が多種多様な不満や意見を有していることがわかったことが今回のアンケート調査の最大の成果である。性別、職業別や居住地別にクロス集計分析を行ったが、それぞれの階層がさまざまな考え方を有している。ただし、その多くがネガティブな意見であり、ポジティブな意見は少数であった。すなわち多くの利用者が南口の現状について満足していない。多様な意見が存在することから、喫緊の課題を解決するための優先項目を見出すことは難しかった。また南口という限られたスペースで多様なニーズを満たすことがそもそも困難なのかもしれない。バス停や駐停車用スペースなどさまざまな用途が混在している。そのため利用者をある程度限定することも検討する余地がある。

現状の南口を放置し続ければ、衰退傾向は加速度的に進み、閑静と思われる環境はますます寂れることになる。その状態に陥った場合、そこから脱するにはかなりの労力とコストを要する。言い換えれば、現在の南口には駅前としての潜在力があるので、今から効果的な対策を実施すれば、活性化することは可能である。

今回のアンケート調査では 535 人から回答を得ることができ、一定数のサンプルを確保することできたと思われる。しかし無作為抽出ではないので、結果には慎重な解釈が必要となる場合があることを最後に述べておく。

Ⅶ. （参考）アンケート調査票

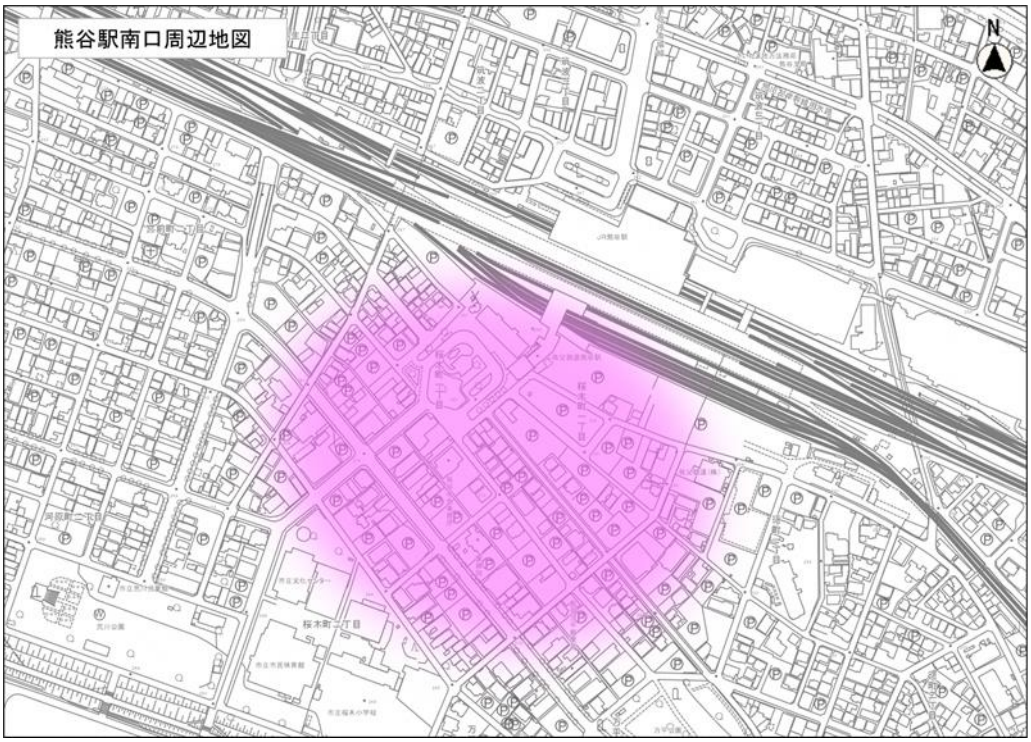
熊谷駅南口の活性化に関するアンケート調査のお願い

熊谷市都市計画課
立正大学データサイエンス学部

このアンケート調査は、熊谷駅南口周辺を活性化させるために、みなさんの意見を広くお聞きし、まちづくりのヒントをいただくことを目的としております。ご回答のほどよろしくお願いいたします。回答時間は 10 分程度です。

熊谷駅南口のイメージ

熊谷駅南口とは、下記の地図の紫色の部分をイメージしています。このようなエリアをイメージして、ご回答ください。



あなたご自身のことについてお伺いします。

差し支えない範囲で教えてください。

設問１　あなたの性別を教えてください。

A　男性　　B　女性　　C　その他

設問２　あなたの職業を教えてください。兼業の場合は、主たる職業についてお答えください。

A　会社員（契約社員、派遣社員含む）　　B　パート・アルバイト（学生を除く）
C　大学生・大学院生・専門学校生　　D　高校生
E　中学生　　F　その他

設問３　あなたの年齢を教えてください。

A　１０代　　B　２０代　　C　３０代　　D　４０代
E　５０代　　F　６０代　　G　７０代以上

設問４　あなたのお住まいについて教えてください。

A　熊谷市内
B　熊谷市隣接（行田市・東松山市・鴻巣市・深谷市・滑川町・嵐山町・吉見町）
C　埼玉県北部（本庄市・寄居町・秩父市の周辺）
D　埼玉県南部（上尾市・川口市・さいたま市の周辺）
E　埼玉県西部（坂戸市・川越市・所沢市の周辺）
F　埼玉県東部（羽生市・久喜市・春日部市の周辺）
G　東京都内　　H　群馬県内　　I　その他

設問５　日用品以外の買い物や娯楽は、主にどこに行きますか。以下の項目から１つ選択してください。

A　熊谷駅周辺（北口）
B　熊谷駅周辺（南口）
C　埼玉県北部（深谷・本庄・秩父周辺など）
D　埼玉県南部（大宮・さいたま新都心・浦和周辺）
E　埼玉県西部（東松山・川越・所沢周辺）
F　埼玉県東部（羽生・三郷・越谷周辺など）
G　東京都内　　H　群馬県内　　I　その他

あなたの熊谷駅南口の利用頻度や感じていることについてお聞きします。

各設問にお答えください。

設問 6　**通勤や通学を目的として**、自宅から熊谷駅南口に行き来するときの、それぞれの交通手段の頻度を教えてください。最も近いものを 1 つ選んでください。

徒歩	A ほぼ毎日	B 週に 1 回程度	C 月に数回程度	D 年に数回以下
自転車	A ほぼ毎日	B 週に 1 回程度	C 月に数回程度	D 年に数回以下
バイク	A ほぼ毎日	B 週に 1 回程度	C 月に数回程度	D 年に数回以下
自家用車 （自分で運転）	A ほぼ毎日	B 週に 1 回程度	C 月に数回程度	D 年に数回以下
自家用車 （家族などの送迎）	A ほぼ毎日	B 週に 1 回程度	C 月に数回程度	D 年に数回以下
路線バス	A ほぼ毎日	B 週に 1 回程度	C 月に数回程度	D 年に数回以下
鉄道 （JR・在来線）	A ほぼ毎日	B 週に 1 回程度	C 月に数回程度	D 年に数回以下
鉄道 （JR・新幹線）	A ほぼ毎日	B 週に 1 回程度	C 月に数回程度	D 年に数回以下
鉄道 （秩父鉄道）	A ほぼ毎日	B 週に 1 回程度	C 月に数回程度	D 年に数回以下

設問 7　通勤や通学以外の目的（例えば、飲食や買い物）で、熊谷駅南口を利用する頻度を教えてください。

A　ほぼ毎日　　B　週に 1 回程度　　C　月に数回程度
D　年に数回以下　　E　ほとんど利用しない

設問８　現在の熊谷駅南口周辺について、あなたが改善したほうがよいと思う課題は何ですか。当てはまるものを３つまで選択してください。

A　商業施設や飲食施設が少ない
B　利便施設や待ち時間を過ごす施設が少ない
C　魅力的な公共施設が少ない
D　駅前に空地や空き家などが多く、人気がなくさみしい
E　駅周辺のロータリーが狭く、使いにくい
F　朝夕を中心とした混雑
G　駅周辺の公共交通（バス・タクシー）の充実
H　バス待ちスポットの改善（雨除けの屋根を広げるなど）
I　観光スポットやお店に関する情報発信や PR の不足
J　その他

設問９　熊谷駅南口周辺に何があれば、もっと魅力的なまちになると思いますか。当てはまるものを３つまで選択してください。

A　日用品、食料品や生活雑貨などを身近に買うことができる店舗
B　品揃えが多くなんでもそろう大規模商業施設
C　食事ができる飲食店、くつろぐことができるカフェ・喫茶店
D　居酒屋など
E　アミューズメント・娯楽施設
F　アーバンスポーツ施設
G　趣味や課外活動で使えるスタジオ・音楽施設
H　誰でも気軽に使える学習・テレワークスペース
I　定期的に開催される集客イベント
J　安全に歩ける歩行空間
K　自然豊かな公園やオープンスペース
L　行政・福祉サービスの充実（例えば、子育て支援施設や高齢者支援施設など）
M　その他

設問 10　熊谷駅南口周辺の活性化を推進するために、あなたが必要と感じる方策は何ですか。当てはまるものを 3 つまで選択してください。

A　駅へのアクセス道路と駅前広場の整備
B　路線バスの発着路線の増加
C　生活道路の整備
D　歩行者と自転車の歩車分離環境の整備
E　新たな商業・レジャー施設の誘致
F　文化施設の整備
G　行政サービス施設の整備
H　医療施設の整備
I　教育機関（サテライトキャンパスなど）の整備
J　公園の整備・保全
K　マンション・住宅の整備
L　駅前の駐車場や駐輪場の整備

熊谷駅南口広場ロータリー、ならびに周辺環境についてお聞きします。

以下の設問にお答えください。
設問 11　熊谷駅南口広場ロータリーに関する、以下の項目のあなたの満足度を教えてください。

①歩行者に対する安全性・配慮	A 大変満足	B 満足	C 普通	D 不満	E 大変不満	F わからない
②自動車の通行しやすさ	A 大変満足	B 満足	C 普通	D 不満	E 大変不満	F わからない
③自動車の送迎利用のしやすさ	A 大変満足	B 満足	C 普通	D 不満	E 大変不満	F わからない
④ロータリー内の市営駐車場の利用のしやすさ	A 大変満足	B 満足	C 普通	D 不満	E 大変不満	F わからない
⑤バス乗り場の利用のしやすさ	A 大変満足	B 満足	C 普通	D 不満	E 大変不満	F わからない
⑥タクシー乗り場の利用のしやすさ	A 大変満足	B 満足	C 普通	D 不満	E 大変不満	F わからない
⑦トイレの利用のしやすさ	A 大変満足	B 満足	C 普通	D 不満	E 大変不満	F わからない
⑧夜間照明の明るさ	A 大変満足	B 満足	C 普通	D 不満	E 大変不満	F わからない

設問 12　熊谷駅南口広場ロータリーを利用しやすくするために、どのような対策が必要ですか。当てはまるものを 3 つまで選択してください。

A　ロータリーや道路の拡幅
B　一般車送迎用空間の配置
C　自転車用レーンの設置
D　バス待ちスポットの改善（雨除けの屋根を広げるなど）
E　ロータリー内市営駐車場の駐車台数増加
F　ロータリー内市営駐車場の出入口の利便性向上
G　休憩スペースの設置
H　夜間照明の改善
I　その他

設問 13　熊谷駅南口周辺全般に関して、ご意見等がございましたら、ご自由に記入してください。

お忙しいところご回答いただき、ありがとうございました。感謝申し上げます。